

島根大学学術情報機構ミュージアム年報

Annual Report of Shimane University Museum

平成25・26年度

2015.5

島根大学 学術情報機構 ミュージアム

Shimane University Museum

序 文

平成26年3月の林 正久前館長のご退職に伴い、平成26年4月から館長の職を引き継ぎました。島根大学は平成25年度に採択された文部科学省の地（知）の拠点整備事業（COC事業）の計画に基づいて、現在、地域に貢献する人材育成や島根固有の素材を活かした研究に重点を置いた大学運営がなされております。ミュージアムはこのような運営方針のもと、埋蔵文化財の発掘・展示や学芸員養成・地域人材育成に関する授業を始め、島根大学の研究成果の情報を地域の方々に発信するために、公開講座・市民講座・特別講座・体験教室等1年を通じて主催してきました。さらに、島根県には古代出雲文化に代表されるような世界に誇れる文化遺産や様々な自然遺産が数多く存在します。そこで、ミュージアムでも大学が主催した古代出雲文化フォーラムやくにびきジオパークプロジェクトのイベント等に積極的にに関わり、ミュージアムスタッフが出講して活動を行ってきました。

今年は島根大学ミュージアムの創設10周年目を迎える節目の年であります。そこで、さらに多くの方々にミュージアムを活用していただくため、ミュージアム施設の整備に積極的に取り組み、大学内だけではなく、地域の博物館との連携活動、島根大学の研究プロジェクトセンターを中心とした地域固有あるいは最先端の研究を紹介する特別展の企画運営等に力を注ぎ、スタッフと共に業務に努めてまいり所存であります。

今年度末には島根大学ミュージアムの10年間を総括し、これからのミュージアムの発展のため、記念イベントを開催する所存でありますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後に、大学ミュージアムの様々な取組に、御理解と御支援をこれからもなお一層賜りますようお願い申し上げます。

平成27年5月

島根大学ミュージアム館長 入月俊明

目次

I 規則・組織	1
1 規則.....	1
(1) 島根大学学術情報機構規則.....	1
(2) 島根大学学術情報機構管理委員会規則.....	2
(3) 島根大学学術情報機構ミュージアム規則.....	2
(4) 普及啓発専門委員会要項.....	4
(5) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会要項.....	4
(6) 埋蔵文化財専門委員会要項.....	5
(7) 島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準.....	5
2 組織.....	8
(1) 組織構成と構成員.....	8
(2) ミュージアム運営会議.....	8
(3) 専門委員会.....	9
II 活動報告	10
1 主な活動日誌抄.....	10
2 標本資料類などの収集、整理・保管、調査研究.....	12
(1) 標本資料類などの収集.....	12
(2) 標本資料類などの整理・保管.....	12
3 博物館学および標本資料類などに係る学生教育.....	12
(1) 学芸員養成課程科目.....	12
(2) 共通教養科目（総合科目）「島大ミュージアム学」.....	15
4 標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献.....	15
(1) 入館者数.....	16
(2) 常設展示.....	17
(3) 企画展示など.....	17
(4) 展示案内・キャンパスツアーなど.....	18
(5) 公開講座・フィールド体験ツアーなど.....	19
(6) 刊行物.....	26
(7) インターネットを活用した情報発信.....	26
5 本学構内の埋蔵文化財の取扱い.....	26
(1) 地下式オイルタンク埋設工事に伴う島根大学出雲キャンパス試掘調査.....	26
(2) 防火水槽の埋設工事に伴う島根大学出雲キャンパス試掘調査（寿昌寺西遺跡第1次発掘調査）.....	29
(3) 島根大学構内遺跡第20次発掘調査（竹崎地区3）.....	30
(4) 島根大学構内遺跡第21次発掘調査（橋縄手地区6）.....	32
(5) 工事立会.....	35
(6) 島根大学構内遺跡第15・16・17・18・19・20・21次発掘調査、寿昌寺西遺跡第1次発掘調査の整理・研究.....	35
6 島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用.....	35
7 マスコミ報道状況.....	36
8 ミュージアム教員の活動記録.....	37

I 規則・組織

1 規則

(1) 島根大学学術情報機構規則

(平成25年島大規則第34号)
(平成25年3月14日制定)
[平成27年3月25日一部改正]

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人島根大学管理學則(平成16年島大規則第1号)第16条の規定に基づき、島根大学学術情報機構(以下「機構」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 機構は、島根大学(以下「本学」という。)の学術情報に関する企画・立案・実施・検証等を行い、もって本学の学術情報を通じた教育研究活動の支援及び地域社会に向けた情報発信を行うことを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、機構は、各学部・研究科等の学内組織と相互に連携を図るものとする。

(業務)

第3条 機構は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 次条の各センター等の統括に関すること。
- 二 図書、学術雑誌、電子化資料、その他の資料の収集、整理、活用に関すること。
- 三 学内外で共同利用する情報処理システム及び情報ネットワークシステムの開発・運用に関すること。
- 四 標本資料類の収集、整理、保管、調査研究及び活用に関すること。
- 五 その他機構の目的を達成するために必要な業務

(センター等)

第4条 機構に、次のセンター等を置く。

- 一 附属図書館
- 二 総合情報処理センター
- 三 ミュージアム

2 各センター等に関し必要な事項は、別に定める。

(組織)

第5条 機構に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 機構長
- 二 専任教員
- 三 その他必要な職員

(機構長)

第6条 機構長は、学長が指名する理事をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を総括する。

(専任教員)

第7条 専任教員は、第4条第1項各号のセンター等のいずれかに所属させる。

2 専任教員の選考は、次条に定める管理委員会及び教育研究評議会の議を経て学長が行う。

3 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(管理委員会)

第8条 機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、島根大学学術情報機構管理委員会(以下「管理委員会」という。)を置く。

2 管理委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9条 機構の事務は、関係各課の協力を得て学術国際部情報企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

(2) 島根大学学術情報機構管理委員会規則

(平成25年島大規則第35号)
(平成25年3月14日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学学術情報機構規則(平成25年島大規則第34号。以下「機構規則」という。)第8条第2項の規定に基づき、島根大学学術情報機構管理委員会(以下「管理委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 管理委員会は、島根大学学術情報機構(以下「機構」という。)に係る次の事項について審議する。

- 一 管理運営の基本方針に関すること。
- 二 機構規則第4条第1項各号に定めるセンター等の長の推薦に関すること。
- 三 機構規則第5条第2号に定める専任教員の人事(資格審査を含む。)に関すること。
- 四 予算及び決算に関すること。
- 五 その他機構の管理運営に関する必要な事項

(組織)

第3条 管理委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 機構規則第4条第1項各号に定めるセンター等の長
- 三 各学部(総合理工学部を除く。)選出による評議員 各1名
- 四 総合理工学研究科選出による評議員 1名
- 五 学術国際部長
- 六 学術国際部情報企画課長
- 七 学術国際部図書情報課長

2 前項第5号から第7号までの委員は、前条第2号及び第3号の事項の審議には加わらないものとする。

(委員長)

第4条 管理委員会に委員長を置き、機構長をもって充てる。

2 委員長は、管理委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 管理委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 管理委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を管理委員会に出席させることができる。

(専門委員会等)

第7条 管理委員会は、必要に応じて専門委員会等を置くことができる。

2 専門委員会等に関し必要な事項は、管理委員会が別に定める。

(事務)

第8条 管理委員会の事務は、学術国際部情報企画課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、管理委員会に関し必要な事項は、管理委員会が定める。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

(3) 島根大学学術情報機構ミュージアム規則

(平成25年島大規則第38号)
(平成25年3月14日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学学術情報機構規則(平成25年島大規則第34号。以下「機構規則」という。)第4条第2項の規定に基づき、島根大学学術情報機構ミュージアム(以下「ミュージアム」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 ミュージアムは、島根大学(以下「本学」という。)における標本資料類などを大学所有の有形知的財産として位置づけ、それらを収集、整理・保管及び調査研究をしようえで、展示公開などによる教育、普及啓発、情報発信の促進及び地域貢献を行うことを目的とする。

(業務)

第3条 ミュージアムは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 標本資料類などの収集、整理・保管及び調査研究に関すること。
- 二 博物館学及び標本資料類などに係る学生教育に関すること。
- 三 標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献に関すること。
- 四 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。
- 五 その他ミュージアムの目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 ミュージアムに、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 機構規則第7条第1項の規定に基づき、ミュージアムに配置する専任教員
- 四 その他必要な職員

- 2 ミュージアムに、必要に応じて兼任研究員及び学外協力研究員を置くことができる。
- 3 兼任研究員及び学外協力研究員について必要な事項は、第7条に規定するミュージアム運営会議において定める。

(館長)

第5条 館長の選考は、機構規則第8条第1項に規定する島根大学学術情報機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）の議を経て、島根大学学術情報機構長の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 館長は、ミュージアムの業務を掌理する。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、管理委員会の議を経て、島根大学学術情報機構長の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 副館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 副館長は、館長を補佐し、ミュージアムの業務を整理する。

(ミュージアム運営会議)

第7条 ミュージアムの業務の円滑な企画及び実施を図るとともに、ミュージアムの運営に関する事項を審議するためミュージアム運営会議を置く。

- 2 ミュージアム運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 第3条に規定する業務に関すること。
- 二 管理委員会から付託された人事に関すること。
- 三 ミュージアムの予算及び決算に関すること。
- 四 専門委員会等の設置に関すること。
- 五 その他島根大学学術情報機構長から付託されたこと。

- 3 ミュージアム運営会議は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 各学部（総合理工学部を除く。）教員代表 各1名
- 四 総合理工学研究科教員代表 1名
- 五 機構規則第7条第1項の規定に基づき、ミュージアムに配置する専任教員
- 六 附属図書館長
- 七 総合情報処理センター長
- 八 生涯教育推進センター長
- 九 学術国際部情報企画課長
- 十 その他館長の申出に基づき、島根大学学術情報機構長が必要と認めた者

- 4 前項第3号及び第4号の委員は、学部長及び研究科長の申出に基づき、学長が任命する。

- 5 第3項第3号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 6 ミュージアム運営会議は、館長が招集し、議長は館長をもって充てる。

- 7 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

- 8 ミュージアム運営会議は、委員の過半数の出席により成立する。

- 9 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 10 第3項第9号及び第10号の委員は、第2項第2号の事項の審議には加わらないものとする。

- 11 ミュージアム運営会議が必要と認めたときは、ミュージアム運営会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第8条 ミュージアムの専門的課題に対応するため、必要に応じて専門委員会等を置くことができる。

- 2 専門委員会等に関し必要な事項は、ミュージアム運営会議において定める。

(事務)

第9条 ミュージアムの事務は、学術国際部情報企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、ミュージアムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 次に掲げる規則は、廃止する。
 - 一 島根大学ミュージアム規則（平成18年島大規則第9号）
 - 二 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）
- 3 学長は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規則施行の日において、この規則施行の日の前日に機構化される前の館長であった者を館長として任命するものとする。
- 4 この規則の施行後最初に任命される館長の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。
- 5 学長は、第6条第1項の規定にかかわらず、この規則施行の日において、この規則施行の日の前日に島根大学ミュージアム副館長であった者を副館長として任命するものとする。

（4）普及啓発専門委員会要項

（平成25年6月3日学術情報機構ミュージアム管理運営委員会決定）

（趣旨）

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム普及啓発専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

- 第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
- 一 シンポジウム、研究会、公開講座等の企画及び実施
 - 二 ニュースレター、広報等の編集・刊行
 - 三 その他普及啓発に関する事項

（組織）

- 第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
- 一 館長
 - 二 副館長
 - 三 ミュージアムの専任教員
 - 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名
- 2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

（会議）

- 第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。
- 2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

- 1 この要項は、平成21年6月11日から施行する。
- 2 島根大学ミュージアム専門委員会内規（平成18年4月28日制定）は、廃止する。

附 則

この要項は、平成25年6月3日から実施する。

（5）島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会要項

（平成25年6月3日学術情報機構ミュージアム管理運営委員会決定）

（趣旨）

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

- 第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
- 一 島根大学旧奥谷宿舎の運営に係る基本計画に関すること。
 - 二 島根大学旧奥谷宿舎を利用した活動等の企画及び実施
 - 三 その他島根大学旧奥谷宿舎に関する事項

（組織）

- 第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
- 一 館長

- 二 副館長
 - 三 ミュージアムの専任教員
 - 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名
- 2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

- 2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

- 1 この要項は、平成21年6月11日から施行する。
- 2 島根大学ミュージアム専門委員会内規(平成18年4月28日制定)は、廃止する。

附 則

この要項は、平成25年6月3日から実施する。

(6) 埋蔵文化財専門委員会要項

(平成25年6月3日学術情報機構ミュージアム管理運営委員会決定)

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則(平成18年島大規則第10号)第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査・試掘調査・確認調査・工事立会に係る基本計画に関する事
- 二 埋蔵文化財の修復保存に係る基本計画に関する事
- 三 その他埋蔵文化財に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

- 2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

- 1 この要項は、平成21年6月11日から施行する。
- 2 島根大学ミュージアム専門委員会内規(平成18年4月28日制定)は、廃止する。

附 則

この要項は、平成25年6月3日から実施する。

(7) 島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準

1 目的

本基準は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)の趣旨を尊重し、島根大学敷地内の開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る基本的な判断基準を定め、埋蔵文化財を適切に保護し、将来への保存を図ることを目的とする。

2 適用対象

本基準は、島根大学が所有する全ての敷地内における開発に伴う埋蔵文化財取扱いに適用する。

3 定義

(1)「試掘調査」とは、埋蔵文化財の有無が地表面の観察等からでは判断できない場合に、部分的に発掘する調査をいう。

(2)「確認調査」とは、埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格・内容等の概要までを把握するため、部分的に発掘する調査をいう。

(3)「発掘調査」とは、開発事業等に際し、影響を受ける埋蔵文化財を事前に発掘し、詳細な記録を作成する措

置を執ることをいう。

(4)「工事立会」とは、工事の施工に際し、専門職員等が立ち会い、遺構・遺物包含層等が確認される等のことがあった場合には、必要に応じて適切な措置を執ることをいう。

(5)「慎重工事」とは、埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで慎重に施工することをいう。

4 埋蔵文化財として取扱う時代範囲

(1) 近世までに属する遺跡は、原則として全て埋蔵文化財として取扱うこととする。

(2) 近現代の遺跡については、島根県や各市町村ならびに島根大学の歴史解明のために重要なものを埋蔵文化財として取り扱うこととし、その決定は、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

5 「発掘調査」を要する範囲の決定

埋蔵文化財の「発掘調査」を要する範囲は、それまでに行われた諸調査の成果に加え、必要に応じて「試掘調査」・「確認調査」等を実施したうえで、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において決定する。

6 埋蔵文化財取扱いの判断基準

開発事業に際しての埋蔵文化財の取扱いについては、次の原則と別表に基づいて、「発掘調査」その他の措置を講ずるものとし、その決定は、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

(1) 次の場合においては、「発掘調査」を実施するものとする。

ア 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。

イ 掘削が埋蔵文化財に影響を及ぼさない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

ウ 一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

エ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態となる場合。

(2) 次の場合においては、「工事立会」を行うものとする。

ア 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。

イ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。

(3) 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合等は、「慎重工事」の措置を講ずる。なお、施工中に遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとり、所定の手続きをとる。

7 島根県教育委員会・関係市町村教育委員会との連携について

埋蔵文化財の取扱いに関しては、島根県教育委員会をはじめ関係市町村教育委員会と十分な連携をはかり、慎重に判断するものとする。

8 開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れ

開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れは、別図に基づいて適切に進めるものとする。

附 則

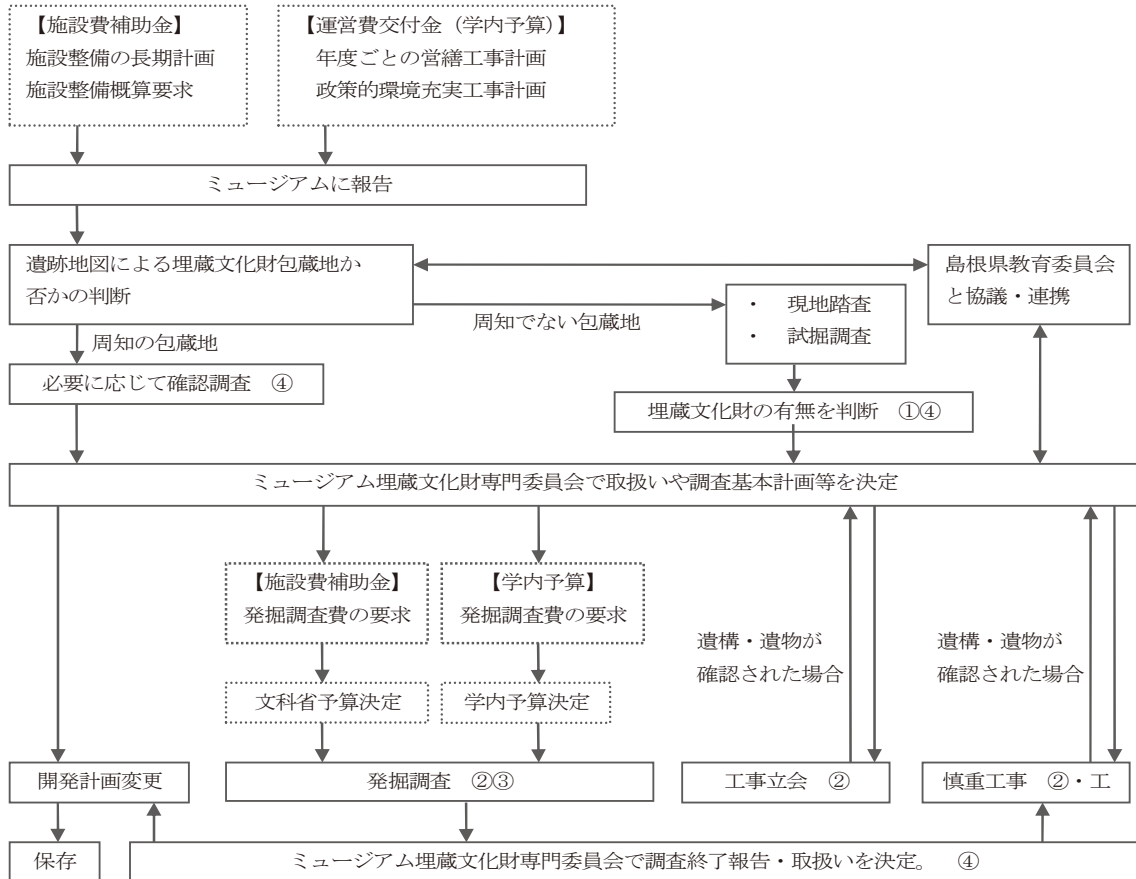
本基準は、平成18年4月1日から適用する。

別表

工事内容・種類	取扱い	
<ul style="list-style-type: none"> 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。 掘削が埋蔵文化財に直接及ばない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。 通常 20 年以上の耐久度を有しない一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。 通常 20 年以上の耐久度を有した恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態になる場合。 	開発事業等に際し、事前に「発掘調査」を実施し、詳細な記録を作成する。	発掘調査
道路		
厚さ 2m 以上の恒久的な盛土・埋立 校舎・共同溝等の建築物・埋納物		
<ul style="list-style-type: none"> 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。 	工事の施工中に調査員が立ち会い、遺構・遺物包含層等が確認される等のことがあった場	

<ul style="list-style-type: none"> 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。 <table border="1" data-bbox="252 280 821 481"> <tr> <td>道路</td> <td>歩道</td> </tr> <tr> <td></td> <td>植樹帯・緑地帯</td> </tr> <tr> <td colspan="2">野球場・競技場</td> </tr> <tr> <td colspan="2">駐車場</td> </tr> <tr> <td colspan="2">公園・緑地</td> </tr> <tr> <td colspan="2">厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立</td> </tr> </table>	道路	歩道		植樹帯・緑地帯	野球場・競技場		駐車場		公園・緑地		厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立		<p>合には、その記録をとり、工事を変更する等、適切な措置を講ずる。 ただし、次の場合においては、発掘調査を実施するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来において発掘調査が可能な条件が満たされない場合。 遺構面あるいは遺物包含層上面から厚さ30cm程度の保護層が確保できない場合。 掘削等により埋蔵文化財に影響が及ぶ部分とそうでない部分、あるいは埋蔵文化財に影響が及ぶ部分と盛土・埋立の部分と著しく交錯する場合。 現地表面に立体的に遺存する埋蔵文化財が、盛土等の施工に伴う地形の変化により、外観上所在が把握できなくなる場合 	工事立会
道路	歩道													
	植樹帯・緑地帯													
野球場・競技場														
駐車場														
公園・緑地														
厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立														
<ul style="list-style-type: none"> 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合。 	埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで、慎重に施工し、遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとる。	慎重工事												

別図 開発と埋蔵文化財取扱いについてのフローチャート



(注)

- ① 遺構・遺物を確認した場合、「遺跡発見届」を島根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ② 「埋蔵文化財発掘届（文化財保護法）第93条第1項」を調査（工事）開始60日前までに島根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ③ 「埋蔵文化財発掘届（文化財保護法92条第1項）」を調査開始30日前までに島根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ④ 遺物を発見した場合、「埋蔵文化財発見届」を所轄警察署に提出。

2 組織

(1) 組織構成と構成員

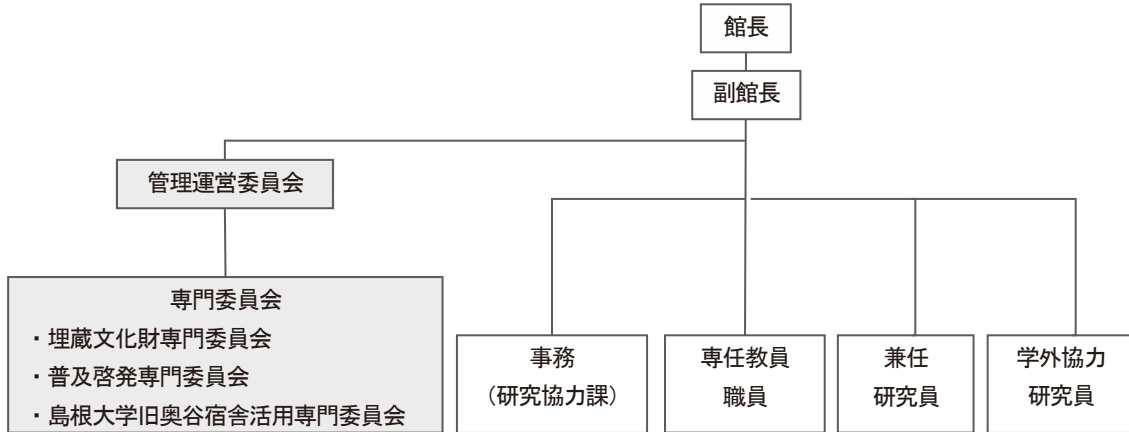


図1 ミュージアムの組織図

館長	教育学部	教授	林 正久 (平成 25 年度まで)
	総合理工学研究科	教授	入月俊明 (平成 26 年度から)
副館長	ミュージアム	准教授	會下和宏
兼任研究員	法文学部	教授	大橋泰夫
	法文学部	准教授	岩本 崇
	法文学部	准教授	及川 穰
	法文学部	教授	小林准士
	法文学部	准教授	西田 兼
	法文学部	准教授	飯野公央
	教育学部	教授	大谷修司
	教育学部	教授	作野広和
	医学部	教授	小林裕太
	総合理工学研究科	教授	三瓶良和
	総合理工学研究科	准教授	酒井哲弥
	生物資源科学部	准教授	秋吉英雄
	生物資源科学部	准教授	山岸主門
	生涯教育推進センター	教授	仲野 寛
	国際交流センター	教授	安藤安則
職員	情報企画課	技術補佐員	田中浩子

(2) ミュージアム運営会議

平成 25 年度

委員長	館長	教授	林 正久
委員	副館長・専任	准教授	會下和宏
	法文学部	准教授	佐々木愛
	教育学部	教授	藤田英樹
	医学部	教授	奥西秀樹

総合理工学研究科	教授	高須 晃
生物資源科学部	教授	宮永龍一
附属図書館長	教授	田籠 博
総合情報処理センター長	教授	會澤邦夫
生涯教育推進センター長	教授	多々納道子
学術国際部情報企画課長		塩田芳夫

平成 26 年度

委員長 館 長	教授	入月俊明
委 員 副館長・専任	准教授	會下和宏
法文学部	准教授	佐々木愛
教育学部	教授	藤田英樹
医学部	教授	橋本龍樹
総合理工学研究科	教授	高須 晃
生物資源科学部	教授	泉 洋平
附属図書館長	教授	田籠 博
総合情報処理センター長	教授	會澤邦夫
生涯教育推進センター長	教授	多々納道子
学術国際部情報企画課長		塩田芳夫

(3) 専門委員会

埋蔵文化財専門委員会

委員長 館 長	教授	林 正久 (平成 25 年度まで)	
館 長	教授	入月俊明 (平成 26 年度から)	
委 員 副館長・専任	准教授	會下和宏	教授 大橋泰夫
法文学部	准教授	岩本 崇	准教授 及川 穰
法文学部	准教授	平郡達哉	教授 小林裕太
総合理工学研究科	教授	三瓶良和	准教授 酒井哲弥

普及啓発専門委員会

委員長 館 長	教授	林 正久 (平成 25 年度まで)	
館 長	教授	入月俊明 (平成 26 年度から)	
委 員 副館長・専任	准教授	會下和宏	教授 小林准士
法文学部	准教授	西田 兼	教授 大谷修司
医学部	教授	小林裕太	教授 三瓶良和
総合理工学研究科	准教授	酒井哲弥	准教授 秋吉英雄

島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会

委員長 館 長	教授	林 正久 (平成 25 年度まで)	
館 長	教授	入月俊明 (平成 26 年度から)	
委 員 副館長・専任	准教授	會下和宏	准教授 飯野公央
教育学部	教授	作野広和	教授 小林裕太
生物資源科学部	准教授	山岸主門	教授 仲野 寛
国際交流センター	教授	安藤安則	

II 活動報告

1 主な活動日誌抄

【平成 25 年度】

平成 25 年 4 月

- 4月1日 ミュージアムが学術情報機構に所属。
- 4月8日 『ミュージアム年報 平成 23・24 年度』刊行。
- 4月17日 考古学ゼミ 20 名がミュージアム見学

平成 25 年 5 月

- 5月11日 子供ミュージアム体験教室「動かして学ぼう！太陽電池の不思議 ～ラジコンカーを太陽電池で動かそう！～」開催
- 5月11日 第 56 回ミュージアム講座「遺跡分布からみた出雲平野の変遷」開催
- 5月18日 第 9 回島根まるごとミュージアム体験ツアー開催
- 5月30日 米子市大高公民館の団体がキャンパスツアー参加

平成 25 年 6 月

- 6月3日 第 1 回学術情報機構ミュージアム運営会議開催
- 6月8日 第 57 回ミュージアム講座「小さな化石を利用した景観の復元」開催
- 6月18日 三次市立君田中学校生徒が団体見学
- 6月20日 松江南高校生徒 40 名が団体見学
- 6月25日 川津小学校児童 30 名が団体見学

平成 25 年 7 月

- 7月3日 大社高校むらさきの会 20 名が団体見学
- 7月20日 第 58 回ミュージアム講座「島根県の化石探訪」開催

平成 25 年 8 月

- 8月2日 千葉県東邦大学附属高校生徒 11 名が団体見学
- 8月9日 オープンキャンパス 2 日間で 312 名が見学
- 8月10日 第 59 回ミュージアム講座「山陰の地で過去の津波の痕跡を探る」開催
- 8月21日 附属中学校構内で堆積物の調査（古環境変遷復元研究のためのピートサンプリング）

平成 25 年 9 月

- 9月5日 米子高校生徒 15 名が団体見学
- 9月5～12日 地下式オイルタンク埋設工事に伴う島根大学出雲キャンパス試掘調査実施
- 9月28日 第 60 回ミュージアム講座「奥出雲地域のたたらと鉄穴流し景観」開催

平成 25 年 10 月

- 10月5日 第 1 回ミュージアム特別講座 in 広島「出雲神話のロマンとたたら」開催
- 10月8日 隠岐島前高校生徒 49 名が団体見学
- 10月14日 学園祭でクイズラリー開催
- 10月18日 松徳学院中学校生徒 20 名が団体見学
- 10月22日 大田高校・大東高校生徒 55 名が団体見学
- 10月26日 第 61 回ミュージアム講座「隠岐諸島黒耀石原産地の踏査報告」開催
- 10月29日 隠岐高校・飯南高校・境高校の生徒 76 名が団体見学

平成 25 年 11 月

- 11月2日 第 2 回ミュージアム特別講座 in 広島「出雲のたたら製鉄」開催
- 11月12日 平田高校・大社高校・島根中央高校生徒 115 名が団体見学
- 11月21日 三刀屋高校・安来高校生徒 70 名が団体見学
- 11月23日 第 62 回ミュージアム講座「石器から鉄器へー弥生時代・山陰地域の道具の移り変わりー」開催
- 11月28日 松江市揖屋公民館の団体がキャンパスツアー
- 11月30日 第 3 回ミュージアム特別講座 in 広島「弥生時代の出雲青銅器文化」開催

平成 25 年 12 月

- 12月1日 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター主催・第 3 回くにびきジオパーク探訪会「中海・宍道湖湖上歴史遊覧」会下副館長出講
- 12月7日 第 4 回ミュージアム特別講座 in 広島「弥生時代の四隅突出型墳丘墓」開催
- 12月12日 出雲農林高校生徒が団体見学
- 12月14日 第 63 回ミュージアム講座「古代製鉄の系譜ー日韓製鉄史の比較からー」開催
- 12月14日～1月26日 企画展示「明治時代の植物標本～発見された旧制松江高等学校（島根大学前身校）の遺産～」

12月21日 第64回ミュージアム講座「先史墓制からみた韓半島と出雲」開催

平成26年1月

1月11日 第5回ミュージアム特別講座 in 広島「考古学からみた出雲国風土記」開催

1月25日 第65回ミュージアム講座「国司からみた古代の出雲国」開催

平成26年2月

2月1日 第66回ミュージアム講座「建物配置・構造からみた出雲国庁の実態」開催

2月8日 第6回ミュージアム特別講座 in 広島「中国山地の暮らしと文化ーたたらー」開催

平成26年3月

3月8日 第67回ミュージアム講座「山陰の古墳と青銅鏡」開催

3月10～17日 防火水槽の埋設工事に伴う島根大学出雲キャンパス試掘調査（寿昌寺西遺跡第1次発掘調査）実施

3月18日 附属中学校生徒20名が団体見学

【平成26年度】

平成26年4月

4月11日 極東連邦大学（ロシア）訪日団が団体見学

4月11～22日 島根大学構内遺跡第20次発掘調査（竹崎地区3）

4月18日 日南中学校生徒がキャンパスツアー参加

4月24日 島根大学構内遺跡第20次発掘調査で検出された旧制松江高校の煉瓦基礎を移築保存

平成26年5月

5月3～5日 広島フラワーフェスティバル・島根大学ブースにパネル出展

5月24日 第10回島根まるごとミュージアム体験ツアー「安来市・奥出雲町のミュージアムをめぐる」開催

5月31日 第68回ミュージアム講座「夏・殷の青銅器文化と社会」開催

平成26年6月

6月2日 第2回学術情報機構ミュージアム運営会議開催

6月7日 第69回ミュージアム講座「楊貴妃と安祿山ー長安から北京へー」開催

6月13日 島根大学文理学部OBがキャンパスツアー参加

6月19日 三次市立君田中学校生徒16名が団体見学

6月20日 大学博物館等協議会（愛媛大学）に参加

6月26日 川津小学校児童60名が団体見学

平成26年7月

7月4日 大社高校PTAが団体見学

7月5日 第70回ミュージアム講座「宋代・朱子学の誕生とその関連史跡」開催

7月30日 『SHIMADAI MUSE』Vol. 5発行

平成26年8月

8月2日 夏休み子供ミュージアム体験教室「大昔の島根を知ろう！～1300-1400万年前の化石を調べよう」開催

8月12日 倉吉市内中学生徒が団体見学

8月22日 中国寧夏大学学生20名がキャンパスツアー参加

8月23日 第71回ミュージアム講座「上海-松江 増田渉と魯迅」開催

平成26年9月

9月11日 米子高校生徒20名が団体見学

9月18日 出雲北陵中学校生徒40名が団体見学

9月20日 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター主催・第5回くにびきジオパーク探訪会「黄泉の穴の伝説：猪目の洞窟」会下副館長出講

9月25日 安来第二中学校生徒が島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）団体見学

平成26年10月

10月4日 第72回ミュージアム講座「地図・写真で見る松江城下町の移り変わり」と建築物」開催

10月8日 松江南高校生徒40名が団体見学

10月12日 ホームカミングデー・キャンパスツアー開催

10月12日 学園祭でクイズラリー開催

10月18日 第1回ミュージアム特別講座 in 大阪開催

10月21日 矢上高校・隠岐高校・倉吉総合産業高校・大東高校生徒が団体見学

10月26日 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター主催・第7回くにびきジオパーク探訪会「パレオパラドキシアと来待石～石の広場コンサート」入月館長出講

10月28日 岡山県立玉野高校生徒が団体見学

平成26年11月

11月4日 飯南高校・島根中央高校・平田高校・鈴峯女子高校生徒が団体見学

11月7日～12月10日 島根大学構内遺跡第21次発掘調査（橋縄手地区6）実施

11月13日 大田高校・大社高校・隠岐島前高校生徒が団体見学

11月15日 第73回ミュージアム講座「初代松江警察署庁舎の建築復原について」開催

11月15日 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター主催・第9回くにびきジオパーク探訪会「美保関の大地・神話・民俗の世界」入月館長出講
11月26日 インド訪日団20名がキャンパスツアー参加

平成26年12月

12月1日 法文学部学生が授業で団体見学
12月5日 教養授業「島大ミュージアム学」で学生が団体見学
12月6日 第74回ミュージアム講座「弥生時代の玉・鉄の流通」開催
12月17日 大社町遥堪コミュニティーセンターがキャンパスツアー参加
12月20日 冬休み子供ミュージアム体験教室「LEDを使ってクリスマス・イルミネーションを作ろう！」開催
12月20日 第2回ミュージアム特別講座 in 大阪開催

平成27年1月

1月20日 島根大学教育学部附属幼稚園の資料をミュージアムに移管
1月22日 島根大学研究機構総合科学研究支援センター実験動物部門の標本をミュージアムに移管
1月22日 第3回学術情報機構ミュージアム運営会議開催
1月28日 雲南市職員が団体見学
1月31日 第75回ミュージアム講座「横穴式石室にみる古墳時代後期の地域関係～九州・山陰・近畿」開催

平成27年2月

2月21日 第76回ミュージアム講座「中世出雲に見るもうひとつの出雲神話ー日本海からインドへー」開催

平成27年3月

3月8日 島根大学主催「古代出雲文化フォーラムⅢ」に入月館長・会下副館長登壇
3月14日 第77回ミュージアム講座「『出雲国風土記』と遺跡にみる古代出雲の広域交流」開催
3月20日 島根大学教育学部附属中学校生徒16名がキャンパス体験学習で団体見学

2 標本資料類などの収集、整理・保管、調査研究

(1) 標本資料類などの収集

平成26年度、下記の学内所蔵資料をミュージアムに移管した。

- ・教育学部附属幼稚園所蔵の戦前の教材など
- ・研究機構総合科学研究支援センター実験動物部門の骨格標本など

(2) 標本資料類などの整理・保管

島根大学構内遺跡出土遺物や上記標本類などのミュージアム所蔵資料は、ミュージアム本館の建物内収蔵室において適切な環境のもとに整理・保管している。また、「島根大学標本資料類データベース」に登録するため、昆虫標本をはじめとしたミュージアム所蔵資料などのデータ整理・デジタル写真撮影を進めた。

また、下記の資料を他機関に貸し出した。

資料名 パレオパラドキシア全身骨格標本模型 1点
期 間 平成26年7月11日(金)～11月14日(金)
貸出先 (財)宍道湖西岸森と自然財団 来待ストーン
理 由 夏季特別企画展「来待層の化石・布志名層の化石展」での展示のため

3 博物館学および標本資料類などに係る学生教育

(1) 学芸員養成課程科目

従来、学芸員資格を取得するための科目の開講や博物館実習の段取りは、各学部が個別的に実

施していた。平成 21 年度以降、教職科目以外で卒業単位とは無関係の科目については、ミュージアムにおいて一元的に開講している。

平成 25・26 年度、ミュージアムが開講した科目は表 1 の通り。「博物館法施行規則」の一部改正によって、学芸員資格取得に必要な単位数が大幅に増加したことを受けて、平成 24 年度から新カリキュラムによる授業を開始している。平成 23 年度以前の入学生は旧カリキュラム、平成 24 年度以降の入学生・編入生・科目等履修生は新カリキュラムを履修した。平成 23 年度入学生が平成 26 年度をもって卒業するため、旧カリキュラム授業は平成 27 年度以降、廃止となる。

表 1 学芸員資格取得に必要な科目
【旧カリキュラム（平成 23 年度以前の入学生）】

博物館法施行規則に定める科目及び単位		法文学部学生	生物資源科学部学生	総合理工学部学生
科目	法定単位			
生涯学習概論	1	生涯教育論（後期・集中）（仲野 寛・*H25 上條秀元・*H26 宮地孝宜）2 単位		
博物館概論	2	博物館概論（前期）（會下和宏）	博物館概論（前期集中）（*高安克己）	
博物館資料論	2	博物館資料論（前期）（會下和宏）	博物館学各論Ⅰ（前期）（會下和宏）	
博物館経営論	1	博物館経営論（前期集中）（會下和宏）	博物館学各論Ⅱ（前期集中）（會下和宏）	
博物館情報論	1	博物館情報論（前期集中）（會下和宏）		
視聴覚教育メディア論	1	教育情報科学概論（後期・教職科目）（高山草二）2 単位	教育情報科学概論（後期集中・教職科目）（森本直人）2 単位	
教育学概論	1	教育原論Ⅱ（前期・教職科目）（*洪山昌雄）2 単位	教育原論Ⅱ（後期集中・教職科目）（*洪山昌雄）2 単位	
博物館実習	3	博物館実習（通年集中）（會下和宏）1 単位	博物館実習（後期集中）（石田秀樹・高畠育雄・宮永龍一）1 単位	博物館実習（後期集中）（會下和宏）1 単位
		博物館実習に係る事前および事後指導（通年集中）（會下和宏）1 単位	博物館実習に係る事前および事後指導（後期集中）（石田秀樹）1 単位	博物館実習に係る事前および事後指導（後期集中）（會下和宏）1 単位
		考古学実習Ⅲ・博物館学実習（前期・後期）（會下和宏）1 単位 その他学部の専門実習を振替	学部の専門実習を振替	学部の専門実習を振替

・*印は非常勤講師

・博物館実習の実施は、学外の各博物館に依頼。

【新カリキュラム（平成24年度入学生・編入生・科目等履修生）】

博物館法施行規則に定める科目及び単位		法文学部学生	生物資源科学部学生	総合理工学部学生	
科目	法定単位				
生涯学習概論	2	生涯教育論（後期集中）（仲野 寛・*H25 上條秀元・*H26 宮地孝宜）			
博物館概論	2	選択	博物館概論A（前期）（會下和宏）		
			博物館概論B（前期集中）（*高安克己）		
博物館資料論	2	博物館資料論（前期）（會下和宏）			
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論（後期）（*沢田正明・會下和宏）			
博物館展示論	2	選択	博物館展示論A（後期）（會下和宏）		
			博物館展示論B（後期集中）（*菅田康彦）		
博物館経営論	2	博物館経営論（前期集中）（*永井 泰）			
博物館情報・メディア論	2	選択	博物館情報・メディア論A（後期）（會下和宏）1単位		
			博物館情報・メディア論B（後期集中）（會下和宏）1単位		
		教育の方法と技術（後期）（高山草二）2単位	教育の方法と技術（後期集中）（森本直人）2単位		
博物館教育論	2		教育原論Ⅱ（前期）（*洪山昌雄）2単位	教育原論Ⅱ（後期集中）（*洪山昌雄）2単位	
		選択	博物館教育論A（後期）（會下和宏）1単位		
			博物館教育論B（後期集中）（會下和宏）1単位		
博物館実習	3		・博物館実習Ⅰ（学内実習）（前期）（會下和宏）1単位 ・その他、専門科目の実習で振替	博物館実習Ⅰ（学内実習） →専門科目の実習で振替	博物館実習Ⅰ（学内実習） →専門科目の実習で振替
			博物館実習Ⅱ（学内実習）（前期）（會下和宏）1単位	博物館実習Ⅱ（学内実習）（前期）（石田秀樹・宮永龍一・林 蘇娟・高島育雄・會下和宏）1単位	博物館実習Ⅱ（学内実習）（前期）（永井 泰・會下和宏）1単位
			博物館実習Ⅲ（館園実習）（前期集中）（會下和宏）1単位	博物館実習Ⅲ（館園実習）（後期集中）（石田秀樹・宮永龍一・秋廣高志）1単位	博物館実習Ⅲ（館園実習）（後期集中）（會下和宏）1単位

・*印は非常勤講師／・博物館実習Ⅲの実施は、学外の各博物館に依頼。

平成25・26年度における学芸員資格取得に必要な科目の受講者数は、表2の通り博物館概論で3学部合計89～91名を数える。平成25年度は、平成24年度入学の学生が2回生となり、新カリキュラムの受講が本格的に始まったが、受講者数はそれほど減少していない。課程の最終段階で受講する博物館実習（館園実習）では、3学部合計46～54名を数える。

以上のように学芸員資格は、教員免許と並んで、文系・理系学生とも取得ニーズが高い。大学ミュージアム施設などを活用したり、大学ミュージアムの普及啓発活動と実習をリンクさせた形での教育プログラムを試行したりするなどして、より良質で実践的な授業を展開し、即戦力となり得る学芸員養成に努めていきたい。

表2 学芸員関係科目の受講者数

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
博物館概論	法文学部	51 (4)	36	32 (1)	32	34	40
	生物資源科学部	34	49	32	29	38	23
	総合理工学部	43	47	17 (1)	36	17	28
	合計	128	132	81	97	89	91
博物館実習Ⅲ (館園実習)	法文学部	52 (2)	34 (4)	33 (2)	27	20	17 (1)
	生物資源科学部	32	14	22	24	20	19
	総合理工学部	9	10	19 (1)	9	14	10
	合計	93	58	74	60	54	46

・人数は未修者なども含む。／・()内は社会人受講生(科目等履修生)の人数。

(2) 共通教養科目(総合科目)「島大ミュージアム学」

後期に共通教養科目(総合科目)の「島大ミュージアム学」を公開授業で実施した。概要は以下の通り。

授業科目名 「島大ミュージアム学～島根大学と島根県の自然・歴史・ひと・文化～」

授業の目的 島根大学で学ぶ学生は、県内外の出身地を問わず、島根県の自然・歴史・文化や本学の学校史、顕著な業績をあげた教官・卒業生などについての知識が希薄であるように見受けられる。そこで本授業では、「ミュージアム」「フィールド」「モノ」をキーワードにして、島根県の自然・歴史・文化や島根大学の学校史・著名人(自校教育)などの基礎的事項について、学際的に学ぶものとする。あわせて、公開授業として地域市民にも聴講してもらう。

達成目標 島根県・島根大学について、広い基礎知識を得てもらおうようにする。本授業を通して、学生や地域市民のなかに、島根県や本学に対する誇り・愛着が醸成されることを期待する。

科目 共通教養科目・選択

対象 1年次、市民

単位数 2単位

曜日・時間 金曜日・2コマ目(10:15～11:45)

担当教員

會下和宏(島根大学ミュージアム准教授)、角田徳幸(島根県教育委員会)、小泉凡(島根県立大学短期大学部教授)、杵村喜則(島根大学元助教授、平成25年度)、中村唯史(島根県立三瓶自然館)

評価 受講登録者数は、平成25年度が学生269名、平成26年度が学生210名。平成25年度も引き続き、第5回には、旧制松江高校ドイツ人教師宿舎として建てられた島根大学旧奥谷宿舎(サテライトミュージアム、松江市奥谷町)やその周辺を散策し、歴史的な町の風景の価値、これらの保護と活用などについて考えさせることをねらいにした授業を実施した。第7回(平成25年度)ないし第10回(平成26年度)には、ミュージアム展示室において前身校の時代から収集されてきた標本類の見学を行い、直接的体験に基づいた教育プログラムを行うことができた。

4 標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献

島根大学憲章に明記された、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」という本学の理念を具体的に実現させるために、ミュージアムミッションに沿って、以下のような、様々な展示・教育普及プログラムを開発・企画・実施した。

(1) 入館者数

①松江キャンパス（ミュージアム本館展示室、山陰地域資料展示室ほか）

学内の展示施設のうち、ミュージアム本館（ミュージアム管轄）と山陰地域資料展示室（汽水地域研究センター管轄）の入館者数は表3の通り。

ミュージアム本館は、平日（月～金）午前9時～午後4時30分開館で、時間内は見学者を随時受け入れる体制になっている。一方、山陰地域資料展示室は通常閉鎖されており、見学希望者のみに案内するため、団体見学者が多数を占める結果となっている。10～11月の入館者数が突出して多い要因は、高大連携に伴う高校生団体の大学訪問、特別授業「島大ミュージアム学」での見学、学園祭などによる。

②サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町140）

松江市奥谷町にあるサテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎は、平成21年10月に修復工事を終えてオープンし、原則、土日祝日のみ午前10時～午後5時に開館している。入館者数は表3の通り。

表3 入館者数一覧

	ミュージアム本館 (平日開館)	山陰地域資料展示室 (団体客・希望者のみ)	サテライト旧奥谷宿舎 (土日祝日開館)	計
平成18年度計	878	589	—	1467
平成19年度計	820	2205	—	3025
平成20年度計	620	808	—	1428
平成21年度計	742	556	1905 (10～3月)	3203
平成22年度計	1018	856	2105	3979
平成23年度計	1103	1044	1430	3569
平成24年度計	1002	1042	2076	4120
25.4	93	42	77	212
25.5	89	59	71	219
25.6	117	87	64	268
25.7	32	22	30	84
25.8	253	126	49	428
25.9	30	17	105	152
25.10	227	198	138	563
25.11	304	451	378	1133
25.12	24	19	54	97
26.1	11	3	71	85
26.2	38	10	65	113
26.3	44	24	99	167
平成25年度計	1262	1058	1201	3521
26.4	147	102	89	338
26.5	62	10	101	173
26.6	121	101	80	302
26.7	44	29	50	123
26.8	120	78	59	257
26.9	99	77	75	251
26.10	113	193	267	573
26.11	32	172	82	286
26.12	224	203	29	456
27.1	12	10	38	60

27.2	25	11	110	146
27.3	39	20	285	344
平成26年度計	1038	1006	1265	3309

(2) 常設展示

島根大学ミュージアムが管理している下記の展示室では、以下のような常設展示を行っている。

①島根大学ミュージアム本館（開館日：平日9：00～16：30）

■常設展示1「遺跡が語る島根大学の歴史」

島根大学松江キャンパスから出土した縄文時代から近代までの考古資料・写真パネルなどを用いた、キャンパスの歴史を展示。

■常設展示2「動物・骨・化石」

島根大学前身校の旧制松江高校・島根師範学校時代に教材として使用されていた動物標本・骨格標本や島根大学の各研究室が教育研究のなかで収集してきた化石、南極の岩石などを展示。

②島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）（開館日：土日祝日10：00～17：00）

■常設展示「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」

島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の1階常設展示室①②において、島根大学とその前身校（旧制松江高校・島根師範学校・島根県立農科大学・島根医科大学など）および島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）の写真、関連資料などを展示。

(3) 企画展示など

①企画展示「明治時代の植物標本～発見された旧制松江高等学校（島根大学前身校）の遺産～」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学生物資源科学部生物科学科

期間 平成25年12月14日（土）～平成26年1月26日（日）の土日祝日 10：00～17：00

会場 サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町140） 1階多目的室

目的・内容 島根大学生物資源科学部生物科学科で、明治中期から大正初期にかけて博物学者の長野菊次郎（1868～1919年）によって収集された、国内最古級の植物さく葉標本1410余点が発見された。この時代は、日本植物研究の黎明期であり、当時の標本のほとんどは、旧帝国大学や国立科学博物館に保存されている。島根大学で発見された植物標本は、明治20年代以後に採集・制作され、旧制松江高等学校（島根大学の前身校）に収蔵されたものである。制作技術が高く、保存状態が良好なことから、学術的価値がきわめて高い貴重な資料である。当展示会では、今回発見された植物標本を展示し、明治時代の植物研究や旧制松江高等学校の植物教育について知ってもらうことを目的とした。

【主な展示資料】

・長野菊次郎収集のさく葉標本（島根大学生物資源科学部生物科学科所蔵）

評価 島根大学が所蔵する全国的に貴重な学術資料を一般公開することができた。マスコミにも報道され、一定の入館者数がみられた。

②山陰研究センター10周年記念行事企画展示「山陰のひと・まち・なりわい」

主催 島根大学法文学部山陰研究センター・島根大学附属図書館・島根大学ミュージアム

期間 平成26年5月15日（木）～6月13日（金）

会場 島根大学ミュージアム本館展示室・島根大学附属図書館1階展示室

目的・内容 島根大学法文学部山陰研究センターの発足10周年記念事業。ミュージアム本館展示室では、島根大学法文学部考古学研究室が発掘調査した廻原1号墳の発掘調査成果解説パネル（考古学研究室制作）と出土遺物を展示。

③企画展示「島根師範学校の遺産Ⅱ～島根大学教育学部附属幼稚園に伝え遺されてきた近代の教材～」

主催 島根大学ミュージアム

協力 島根大学教育学部附属幼稚園

期間 平成27年3月7日（土）～平成27年5月10日（日）の土日祝日 10:00～17:00

会場 サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町140） 1階多目的室

目的・内容 島根師範学校（島根大学教育学部の前身校）とは、戦前にあった学校教員を養成するための高等教育機関である。そのルーツは、明治8年発足の小学教員伝習所（島根県・浜田県）にまでさかのぼることができる。この師範学校には、全国的にも早い時期である明治18年に附属幼稚園が開園している。この師範学校附属幼稚園をルーツにもつ現在の島根大学教育学部附属幼稚園には、かつて使われていた明治から昭和初期の教材や教科書が、永年にわたって大切に保管されてきた。当展示会では、こうした近代学校教育や島根大学の歴史を知るうえで重要な教育資料を展示した。

【主な展示資料】

師範学校附属幼稚園で使用されていた明治から昭和初期の様々な教具・絵本・石盤など。

*教具は、「モンテッソーリの教具」「フレーベルの恩物」と呼ばれる、19世紀から20世紀初頭にかけて開発された幼児向け教具。アンネ・フランクやピーター・ドラッカー、英国王室のウィリアム王子らもモンテッソーリ教育を受けたといわれる。

評価 島根大学が所蔵する全国的にも貴重な教育資料を一般公開することができ、本学の長い歴史についても理解してもらうことができた。大学博物館ならではの企画といえる。

（４）展示案内・キャンパスツアーなど

①展示案内

内容 ミュージアム本館や山陰地域資料展示室に来館した見学者に分かりやすく展示解説した。

評価 平成23年度以降、高大連携に伴う高校生団体の大学訪問や外国からの訪日団など、団体見学の際の展示解説が増加傾向にある。

②キャンパスツアー

目的・内容 松江キャンパス内の各展示施設・研究室などをめぐるキャンパス・ウォーキングツアー。小中高校生・受験生・保護者・島根大学OB・市民一般に、島根大学構内やキャンパスラ



企画展示「明治時代の植物標本～発見された旧制松江高等学校（島根大学前身校）の遺産～」(25.12.14～26.1.26)
旧制松江高等学校に収蔵されていた国内最古級のさく葉標本を公開。



企画展示「島根師範学校の遺産Ⅱ～島根大学教育学部附属幼稚園に伝え遺されてきた近代の教材～」(27.3.7～5.10)
師範学校附属幼稚園で使用されていた戦前の幼児教育資料を公開。

イフの様子を理解してもらうことを目的としている。

キャンパスの敷居を低くして、地域から親しまれる大学作りを進めるための一環であるとともに、受験生には、志望校について具体的に知ってもらい、入学後の大学生活をイメージしてもらうこともねらいとしている。

予約をうけて、下記の①～⑩基本コースを中心に、学内の展示施設・校舎内などを解説しながら案内している。

- ①旧制松江高等学校～島根大学正門の門柱（国登録有形文化財）
- ②旧制松江高等学校石碑（本部棟東側）
- ③総合理工学部3号館1F研究紹介コーナー・3号館高層階からキャンパスや市街地を展望
- ④ミュージアム本館展示室
- ⑤古代出雲文化資料調査室
- ⑥みのりの小道（ミニ学術植物園）
- ⑦山陰地域資料展示室
- ⑧菅田ヶ丘古墳（移築復元）
- ⑨附属図書館、同窓会連合会展示コーナー
- ⑩大学ホール

評価 米子市大高公民館・松江市揖屋公民館・日南中学校・インド訪日団など、各種団体の参加があった。また、例年、ホームカミングデーの一企画としてもキャンパスツアーを実施しており、「久しぶりに母校を巡ることができて懐かしかった」という感想をいただいた。

③学園祭特別企画「島大ミュージアム・クイズラリー：クイズに答えてミュージアムグッズをもらおう！」

日時 平成25年10月13日（日）9：00～16：00、14日（月祝）9：00～12：00
平成26年10月12日（日）9：00～16：00、13日（月祝、台風のため中止）

場所 島根大学ミュージアム本館展示室・山陰地域資料展示室

内容 学内の展示室をめぐる、展示内容に関するクイズに答えてもらい、全問正解で島根大学オリジナルグッズを進呈。

評価 平成25年度は2日間で約150名、平成26年度は1日で約50名の親子・児童などがクイズに取り組み、展示室を熱心に見学してもらうことができた。

（5）公開講座・フィールド体験ツアーなど

①ミュージアム市民講座、ミュージアム特別講座 in 広島、ミュージアム特別講座 in 大阪

目的 ミュージアム市民講座は、主に島根大学の様々な専門分野の教職員などが講師を務め、自身の教育研究内容について、分かりやすくリレー講義するものである。生涯学習の一環として、本学の教育研究成果を市民一般や高校生などに広く理解してもらうことを目的としている。

評価 初めての企画として、平成25年度は広島市で6回、平成26年度は大阪市で2回の特別講座を開催し、申込みが定員を超過するなど、広島・大阪でも出雲文化に対する関心の高さがうかがえた。広島市の特別講座が6回で約360名、大阪市の特別講座が2回で約120名受講した。松江市で開講している通常の市民講座は、平成25年度に計12回（第56～67回）開催し、計346名（各回25～32名）が受講、平成26年度に計10回（第68～77回）開催し、計351名（各回26～42名）が受講した。

■島根大学公開講座・平成25年度第1ステージ「山陰の古環境を探る」（まつえ市民大学連携講座）

主催 島根大学ミュージアム

共催 島根大学生涯教育推進センター

内容 身近な山陰地域における環境変遷や生物・人類との関わりについて、学際的に話題提供す

る連続講座。

対象 市民一般・大学生・高校生

場所 松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町 43） 201・202 研修室

- ・第 56 回「遺跡分布からみた出雲平野の変遷」
講師：会下和宏（島根大学ミュージアム副館長・准教授）
日時：平成 25 年 5 月 11 日（土） 13：00～14：30
- ・第 57 回「小さな化石を利用した景観の復元」
講師：渡邊正巳（島根県大学汽水域研究センター客員研究員）
日時：平成 25 年 6 月 8 日（土） 13：00～14：30
- ・第 58 回「島根県の化石探訪」
講師：入月俊明（島根大学総合理工学研究科教授）
日時：平成 25 年 7 月 20 日（土） 13：00～14：30
- ・第 59 回「山陰の地で過去の津波の痕跡を探る」
講師：酒井哲弥（島根大学総合理工学研究科准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）
日時：平成 25 年 8 月 10 日（土） 13：00～14：30
- ・第 60 回「奥出雲地域のたたらと鉄穴流し景観」
講師：林 正久（島根大学教育学部教授・島根大学ミュージアム館長）
日時：平成 25 年 9 月 28 日（土） 13：00～14：30

■島根大学公開講座・平成 25 年度第 2 ステージ「考古学・歴史学からみた先史・古代の出雲 IV」

（まつえ市民大学連携講座）

主催 島根大学ミュージアム・島根大学法文学部山陰研究センター「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究」プロジェクトチーム

共催 島根大学生涯教育推進センター

内容 島根大学法文学部山陰研究センター「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究」プロジェクトチームのメンバーを講師とする「先史・古代出雲」をテーマにした連続講座。平成 22・23・24 年度に開講したシリーズの続編。

対象 市民一般・大学生・高校生

場所 松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町 43） 201・202 研修室

- ・第 61 回「隠岐諸島黒耀石原産地の踏査報告」
講師：及川 穰（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）
日時：平成 25 年 10 月 26 日（土） 13：00～14：30
- ・第 62 回「石器から鉄器へ ―弥生時代・山陰地域の道具の移り変わり―」
講師：会下和宏（島根大学ミュージアム副館長・准教授）
日時：平成 25 年 11 月 23 日（土） 13：00～14：30
- ・第 63 回「古代製鉄の系譜 ―日韓製鉄史の比較から―」
講師：角田徳幸（島根県教育委員会・島根大学法文学部山陰研究センター客員研究員）
日時：平成 25 年 12 月 14 日（土） 13：00～14：30
- ・第 64 回「先史墓制からみた韓半島と出雲」
講師：平郡達哉（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）
日時：平成 25 年 12 月 21 日（土） 13：00～14：30
- ・第 65 回「国司からみた古代の出雲国」
講師：大日方克己（島根大学法文学部教授）
日時：平成 26 年 1 月 25 日（土） 13：00～14：30
- ・第 66 回「建物配置・構造からみた出雲国庁の実態」
講師：大橋泰夫（島根大学法文学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）
日時：平成 26 年 2 月 1 日（土） 13：00～14：30
- ・第 67 回「山陰の古墳と青銅鏡」

講師：岩本 崇（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成26年3月8日（土） 13:00～14:30

■島根大学ミュージアム特別講座 in 広島「出雲文化へのいざない～弥生青銅器・たたら・出雲国風土記～」（古代出雲文化フォーラムⅡプレ企画）

主催 島根大学・島根大学ミュージアム

内容 宍道湖・中海周辺部から中国山地までを含む出雲地域では、先史時代から現代にいたるまで、多様で個性的な文化が展開してきた。本特別講座では、弥生時代以降の出雲文化にまつわる様々なトピックのなかから、弥生青銅器・弥生墳丘墓・たたら製鉄・『出雲国風土記』を取り上げ、それぞれの専門研究者が分かりやすく解説した。平成26年3月9日開催の「古代出雲文化フォーラムⅡ」へいざなう企画。

対象 市民一般・大学生・高校生

場所 広島市まちづくり市民交流プラザ（広島市中区袋町6-36）

・第1回「出雲神話のロマンとたたら」

講師：大庭卓也（島根大学総合理工学研究科教授）

日時：平成25年10月5日（土） 13:30～14:45

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室B

・第2回「出雲のたたら製鉄」

講師：角田徳幸（島根県教育庁文化財課企画幹）

日時：平成25年11月2日（土） 13:30～14:45

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室B

・第3回「弥生時代の出雲青銅器文化」

講師：松本岩雄（島根県教育庁文化財専門官）

日時：平成25年11月30日（土） 13:30～14:45

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室B

・第4回「弥生時代の四隅突出型墳丘墓」

講師：会下和宏（島根大学ミュージアム副館長・准教授）

日時：平成25年12月7日（土） 13:30～14:45

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ マルチメディアスタジオ

・第5回「考古学からみた出雲国風土記」

講師：大橋泰夫（島根大学法文学部教授）

日時：平成26年1月11日（土） 13:30～14:45

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室C

・第6回「中国山地の暮らしと文化ーたたらー」

講師：島津邦弘（元中国新聞編集局次長・元比治山大学教授）

日時：平成26年2月8日（土） 13:30～14:45

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室C

■島根大学ミュージアム市民講座・平成26年度第1ステージ「日本の隣国・中国の歴史・文化を学ぶ」（まっえ市民大学連携講座）

主催 島根大学ミュージアム

共催 まっえ市民大学

内容 中国大陸の文明は、4000年以上の永い歴史をもち、そこに興亡した国々は東アジアにおいて様々な面で常に強い影響力を持ち続けてきた。こうした中国の歴史・文化は、隣人である日本人としては知っておかなければならない知識である。本講座では、古代から近代までの中国の歴史・文化に関わるいくつかのトピックをあげて解説した。

対象 市民一般・大学生・高校生

場所 松江スティックビル（松江市民白潟本町43番地）松江市民活動センター

- ・第 68 回「夏・殷の青銅器文化と社会」
講師：会下和宏（島根大学ミュージアム准教授・副館長）
日時：平成 26 年 5 月 31 日（土） 13：00～14：30
- ・第 69 回「楊貴妃と安祿山ー長安から北京へー」
講師：丸橋充拓（島根大学法文学部准教授）
日時：平成 26 年 6 月 7 日（土） 13：00～14：30
- ・第 70 回「宋代・朱子学の誕生とその関連史跡」
講師：佐々木愛（島根大学法文学部准教授）
日時：平成 26 年 7 月 5 日（土） 13：00～14：30
- ・第 71 回「上海 - 松江 増田渉と魯迅」
講師：内藤忠和（島根大学法文学部准教授）
日時：平成 26 年 8 月 23 日（土） 13：00～14：30

■島根大学ミュージアム市民講座・平成 26 年度第 2 ステージ「松江城下町の歴史と近代建築」（まつえ市民大学連携講座）

主催 島根大学ミュージアム

共催 まつえ市民大学

内容 本講座では、城下町松江の見どころや構造・歴史・近代建築について学び、さらにこれからの松江市の景観・修景についても考えてもらった。

対象 市民一般・大学生・高校生

会場 松江スティックビル（松江市白潟本町 43 番地）松江市市民活動センター 201・202 研修室

- ・第 72 回「地図・写真で見る松江城下町の移り変わりと建築物」
講師：会下和宏（島根大学ミュージアム准教授・副館長）
日時：平成 26 年 10 月 4 日（土） 13：00～14：30
- ・第 73 回「初代松江警察署庁舎の建築復原について」
講師：安高尚毅（島根大学総合理工学研究科助教）
日時：平成 26 年 11 月 15 日（土） 13：00～14：30

■島根大学ミュージアム市民講座・平成 26 年度第 3 ステージ「出雲における文化交流の歴史」（まつえ市民大学連携講座）

主催 島根大学ミュージアム・島根大学古代出雲プロジェクトセンター

共催 まつえ市民大学

内容 本講座では、先史から中世にかけての出雲地域と他地域との文化交流をテーマに、いくつかのトピックをあげて解説した。

対象 市民一般・大学生・高校生

会場 松江スティックビル（松江市白潟本町 43 番地）松江市市民活動センター 201・202 研修室

- ・第 74 回「弥生時代の玉・鉄の流通」
講師：会下和宏（島根大学ミュージアム准教授・副館長）
日時：平成 26 年 12 月 6 日（土） 13：00～14：30
- ・第 75 回「横穴式石室にみる古墳時代後期の地域関係～九州・山陰・近畿」
講師：角田徳幸（島根県教育委員会）
日時：平成 27 年 1 月 31 日（土） 13：00～14：30
- ・第 76 回「中世出雲に見るもうひとつの出雲神話ー日本海からインドへー」
講師：高橋 周（出雲弥生の森博物館専門研究員）
日時：平成 27 年 2 月 21 日（土） 13：00～14：30
- ・第 77 回「『出雲国風土記』と遺跡にみる古代出雲の広域交流」

講師：大橋泰夫（島根大学法文学部教授）

日時：平成27年3月14日（土） 13：00～14：30

■島根大学ミュージアム特別講座 in 大阪「古代出雲文化へのいざない」（島根大学古代出雲文化フォーラムⅢプレ企画）

主催 島根大学・島根大学ミュージアム・島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター・島根大学古代出雲プロジェクトセンター

内容 本特別講座では、地質学・考古学の立場から、古代出雲文化の舞台となった出雲・伯耆地域などの成り立ちや近畿をはじめとする他地域との文化交流について紹介した。平成27年3月8日開催の「古代出雲文化フォーラムⅢ」へいざなう企画。

対象 市民一般・大学生・高校生

場所 島根ビルディング（大阪市北区西天満3丁目13番18号） 9階会議室

・第1回 日時：平成26年10月18日（土） 13：30～15：40

「地質学的にみた日本海の形成～隠岐島・島根半島を中心に」

講師：入月俊明（島根大学総合理工学研究科教授・島根大学ミュージアム館長）

「黒曜石とサヌカイトの利用からみた先史時代の山陰と近畿・瀬戸内」

講師：及川 穰（島根大学法文学部准教授）

・第2回 日時：平成26年12月20日（土） 13：30～15：40

「古墳時代銅鏡の授受からみた倭王権と出雲・伯耆」

講師：岩本 崇（島根大学法文学部准教授）

「横穴式石室にみる古墳時代後期の地域関係～九州・山陰・近畿」

講師：角田徳幸（島根県教育委員会）

②フィールド体験ツアー

目的 フィールド体験ツアーは、豊かで多様性のある島根県内の自然・歴史・文化資源をフィールドミュージアムにみたくて、島根大学所有のバスで現地を訪れ、見学する企画である。県内に埋もれた地域資源を再発見してもらうことを目的としている。例年、島根大学生涯教育推進センターが運営する島根大学公開講座の一環として実施している。

■第9回島根まるごとミュージアム体験ツアー「ローカル鉄道『三江線』で巡る江の川流域の自然・歴史・芸術遺産」

日時 平成25年5月18日（土） 9：00～18：00

内容 「三江線」は、美しい景観をつくる江の川に沿って走るローカル鉄道である。本ツアーでは、バスと三江線で、美術館や歴史的景観が残る町を訪ね、江の川流域の自然・歴史・芸術を学んだ。コース内容は下記の通り。

9：00 島根大学松江キャンパス バス出発

11：10 世界遺産・温泉津温泉 町並み見学

12：44 JR 三江線・江津駅 乗車

13：13 JR 三江線・川戸駅 下車、今井美術館「再興第97回院展」見学

15：10 江津本町 町並み見学

18：00 島根大学松江キャンパス 着

評価 参加者は35名。予定通りコースを巡ることができた。三江線の車窓から望む江の川の景色に歓声があがるなど、大変好評だった。

■第10回島根まるごとミュージアム体験ツアー「安来市・奥出雲町のミュージアムをめぐる」

日時 平成26年5月24日（土） 9：00～15：00

内容 安来市飯梨川流域には、歴史や文化に裏打ちされた様々な博物館・美術館が点在している。本ツアーでは、歴史・芸術・自然史のミュージアムや遺跡を訪ねた。コースは下記の通り。

- 9:00 島根大学松江キャンパス バス出発
- 9:50 安来市立歴史資料館見学
- 10:40 加納美術館見学
- 12:10 金屋子神話民俗館見学
- 13:25 奥出雲多根自然博物館見学
- 15:00 島根大学松江キャンパス 着

評価 参加者は40名。4館のミュージアムを予定通り巡ることができた。訪問館の学芸員から展示解説もなされ、大変好評だった。

③親子で学ぶ子どもミュージアム体験教室（小学生向け企画）

目的 子どもミュージアム体験教室は、島根大学がもつ研究機器や機材を活用して、小中学生向けに様々なミュージアム体験をしてもらうミュージアム・スタート活動である。児童・生徒たちに、島根大学でどんな研究をしているのか、大学内部の研究施設がどうなっているのかについて理解してもらうことで、将来的な島根大学進学への動機付けにってもらうこともねらいとしている。

■子どもミュージアム体験教室「動かして学ぼう！太陽電池の不思議 ～ラジコンカーを太陽電池で動かそう！～」

講師 葉 文昌（島根大学総合理工学研究科准教授）

日時 平成25年5月11日（土） 9:30～11:30

場所 島根大学総合理工学部1号館 21講義室

評価 児童に関心が高い太陽電池を使用した工作という内容であったことから参加申込みが殺到し、定員を超えたため抽選した。参加者は親子100名（50組）。親子でコミュニケーションをはかりながら熱心に電子工作に取り組むことができた。教室の様子は、新聞でも報道された。

■夏休み子どもミュージアム体験教室「大昔の島根を知ろう！～1300-1400万年前の化石を調べよう！～」

講師 入月俊明（島根大学ミュージアム館長・島根大学総合理工学研究科教授）

日時 平成26年8月2日（土） 9:00～12:30

場所 小田海岸（島根県出雲市多伎町）

評価 定員を超えたため抽選した。参加者は親子50名（25組）。あいにくの雨天だったが、参加親子は、熱心に化石採取に取り組むことができた。教室の様子は、新聞でも報道された。

■冬休み子どもミュージアム体験教室「LEDを使ってクリスマス・イルミネーションを作ろう！」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学パワーエレクトロニクス研究室

講師 山本真義（島根大学総合理工学研究科准教授）

日時 平成26年12月20日（土） 10:00～11:30

場所 島根大学学生市民交流ハウス「FLATフラット」・島根大学総合理工学部3号館

評価 日本人が青色LEDの発明でノーベル賞受賞した時期と重なったため、児童の関心も高かった。参加者は親子40名（20組）。参加親子は、熱心に電子工作に取り組むことができた。教室の様子は、新聞でも報道された。

④その他

下記の普及啓発活動について共催・協力した。

■第3回くにびきジオパーク探訪会「中海・宍道湖湖上歴史遊覧」

主催 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター

共催 島根大学汽水域研究センター・島根大学ミュージアム・島根大学総合理工学研究科地球資源環境学領域・島根大学教育学部環境寺子屋



第5回ミュージアム特別講座 in 広島「考古学からみた出雲国風土記」(26. 1. 11)



第2回ミュージアム特別講座 in 大阪「古墳時代銅鏡の授受からみた倭王権と出雲・伯耆」(26. 12. 20)



子どもミュージアム体験教室「動かして学ぼう！太陽電池の不思議 ～ラジコンカーを太陽電池で動かそう！～」(25. 5. 11)



子どもミュージアム体験教室「大昔の島根を知ろう！～1300-1400 万年前の化石を調べよう！～」(26. 8. 2)

後援 松江市・国土交通省出雲河川事務所・ホシザキグリーン財団

日時 平成25年12月1日(土) 9:00～14:30

場所 中海・宍道湖・権現山洞窟遺跡・大根島溶岩トンネルなど

■「広島フラワーフェスティバル2014」島根大学ブース出展

日時 平成26年5月3日(土)～5日(月)

場所 広島市

内容 「広島フラワーフェスティバル2014」の島根大学ブースに、「島根大学の考古学」と題した遺跡解説パネル(法文学部考古学研究室と共作)を展示。

■第5回くにびきジオパーク探訪会「黄泉の穴の伝説：猪目の洞窟」

主催 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター

共催 島根大学ミュージアム・島根大学教育学部・島根大学総合理工学研究科地球資源環境学領域・島根大学COC事業・鰐淵コミュニティーセンター・風土記を訪ねる会

後援 出雲市

日時 平成26年9月20日(土) 9:30～14:30

場所 猪目洞窟・韓竈神社など

■第7回くにびきジオパーク探訪会「パレオパラドキシアと来待石～石の広場コンサート」

主催 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター

共催 モニュメントミュージアム来待ストーン・島根大学総合理工学研究科地球資源環境学領域・島根大学教育学部自然環境教育講座・島根大学ミュージアム・島根大学COC事業・来待石灯ろう協同組合・きまち川まつり実行委員会

後援 松江市

日時 平成26年10月26日(土) 12:30~16:45

場所 地蔵崎・美保関灯台・美保神社・獅子ヶ鼻・美保関歴史生活体験資料館など

■第9回くにびきジオパーク探訪会「美保関の大地・神話・民俗の世界」

主催 島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター

共催 出雲三大神話語り部の里・島根大学総合理工学研究科地球資源環境学領域・島根大学教育学部自然環境教育講座・島根大学ミュージアム・島根大学COC事業

後援 松江市

日時 平成26年11月15日(土) 9:15~14:40

場所 来待ストーン南側採石場(小三才谷採石場)など

(6) 刊行物

下記の刊行物を発行・配布した。

・『シマダイ・ミュージズ』Vol. 5、2014.7

(7) インターネットを活用した情報発信

①「島根大学標本資料類データベース」のデータ登録・公開

平成23年度島根大学政策配分経費(重点プロジェクト経費<教育改革推進経費>)をもとにシステム構築を行った「島根大学標本資料類データベース」に本学所蔵標本資料類のデータ登録を行った。本データベースは、総合大学である島根大学が収集してきた植物・藻類・動物・昆虫・化石・鉱物・岩石・理工系・美術・考古・民俗・記録史料・写真など、様々な分野の標本資料類を収載している。

・登録数 約5,900件

・閲覧件数 154,733(平成24年1月12日~平成27年3月31日)

・URL <http://museum-database.shimane-u.ac.jp/specimen/>

②「島根県遺跡データベース」のデータ登録

「島根県遺跡データベース」(平成15年度地域貢献事業によって島根大学地域貢献協議会が制作)に島根県内の遺跡データ(遺跡・遺構・遺物・調査・文献データ)を登録した。データは、自治体・個人などが発行・発表した平成25年度刊行発掘調査報告書・資料紹介などに掲載してある情報を整理して収載した。

なお、本データベースは、約82万6,200件(平成27年3月31日)のアクセスを記録しており、きわめて使用頻度が高い。

・URL <http://iseki.shimane-u.ac.jp/>

5 本学構内の埋蔵文化財の取扱い

(1) 地下式オイルタンク埋設工事に伴う島根大学出雲キャンパス試掘調査

調査機関 島根大学ミュージアム

調査場所 島根県出雲市塩冶町 89-1 出雲キャンパス (図2のH25)

調査目的 地下式オイルタンク (9.80×6.05m、深さ 2.87m) の設置によって、現代盛土より下位の堆積層が破壊されることから、埋蔵文化財の有無を確認する。

調査面積 59.29 m² (9.80×6.05m)

調査期間 平成 25 年 9 月 5～12 日

調査経過 平成 25 年 9 月 5～6 日 現代盛土重機掘削
 9 月 9～11 日 第 1 層・第 2 層・第 3 層掘り下げ
 9 月 11 日 断面写真、図面作成
 9 月 12 日 現地検討会 (ミュージアム埋蔵文化財専門委員会)、補足調査

基本層序・遺物 (図 3)

層名	層相	標高 (m)	遺物	堆積時期
現代盛土		+6.8～(9.1～9.7)		昭和 50 年頃
第 1 層 (大学造成前水田耕作土・盛土)	オリーブ黒色泥土	+6.6～6.8	陶磁器、須恵器、ビニール	近世?～近代
第 2 層	オリーブ黒色粘土	+6.5～6.6	なし	不明
第 3a 層 (神戸川による堆積層)	灰色シルト	+6.3～6.5	なし	不明
第 3b 層 (神戸川による堆積層)	灰色細砂	+6.1～6.3	なし	不明
第 3c 層 (神戸川による堆積層)	オリーブ黒色シルト	～+6.1	なし	不明

特記事項

調査の結果、近現代水田耕作土 (第 1 層) の下位から神戸川の堆積による細砂層・シルト層の互層 (第 3 層) が検出された。基本層序は、これまでの周辺調査区と同様である。第 3 層からは、遺物は出土しておらず、これまでの調査成果とあわせると、本調査区は神戸川の氾濫原に位置しており、埋蔵文化財が存在する可能性はきわめて低いものと判断した。以上の成果から、今回の開発工事に伴う埋蔵文化財の取扱いについては、「慎重工事」によって対応するものと決定した。

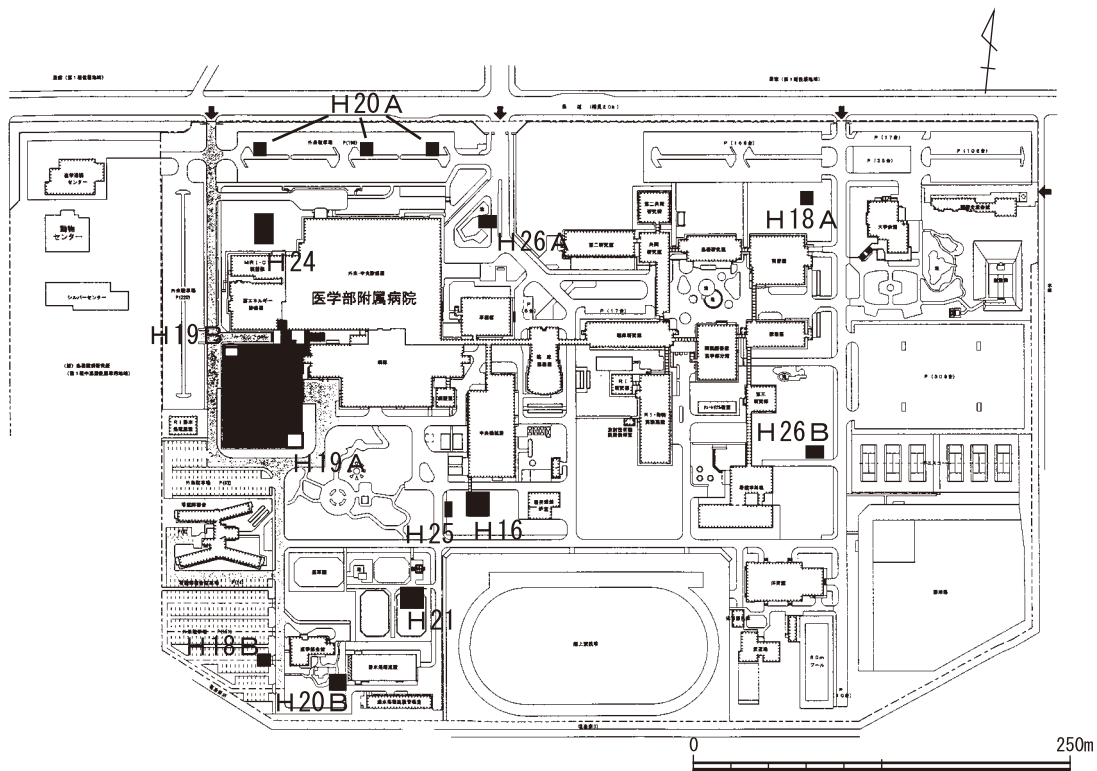


図 2 島根大学出雲キャンパス調査区位置図 (1/5,000)

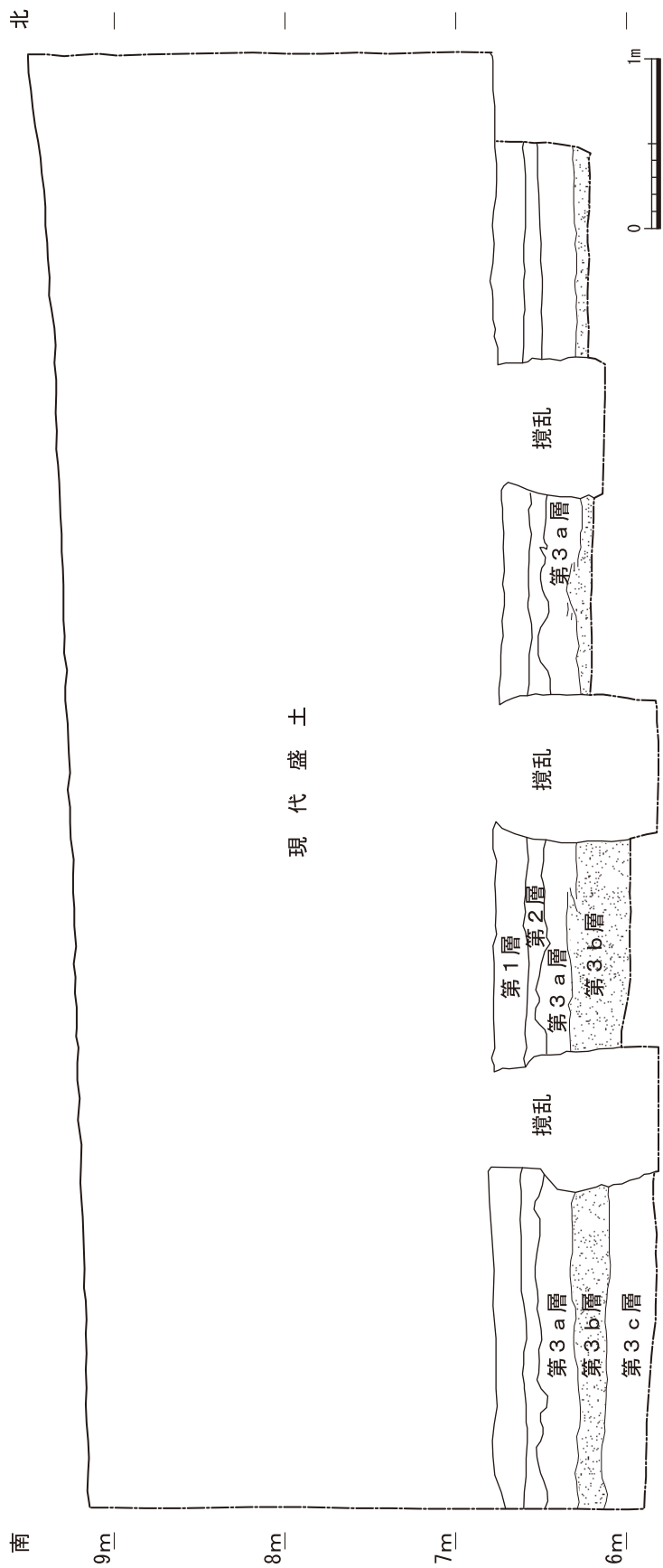


図3 島根大学出雲キャンパスH25区西壁断面図 (1/40)

(2) 防火水槽の埋設工事に伴う島根大学出雲キャンパス試掘調査（寿昌寺西遺跡）

第1次発掘調査）

調査機関 島根大学ミュージアム

調査場所 島根県出雲市塩冶町 89-1 出雲キャンパス 附属病院棟東側（図2のH26A）・看護学科棟北東側（図2のH26B）

調査目的 防火水槽の埋設工事に伴う埋蔵文化財の確認

調査面積 40.32 m² (7.2m×5.6m) × 2か所

調査期間 平成26年3月10日～17日

調査経過

(H26A区)

平成26年3月12～13日 現代盛土重機掘削

3月13日 第1～3層掘り下げ、北壁断面写真撮影・図面作成

3月17日 現地検討会（ミュージアム埋蔵文化財専門委員会）、補足調査

(H26B区)

平成26年3月10～11日 現代盛土重機掘削

3月11日 第1層掘り下げ

3月11～14日 第2・3層掘り下げ

3月14日 第4層掘り下げ

3月15日 東壁断面写真撮影・図面作成

3月17日 現地検討会（ミュージアム埋蔵文化財専門委員会）、補足調査

基本層序・遺物（図4・5）

・H26A区

層位 遺構	層相	標高 (m)	遺物	堆積時期
第1層 (大学造成前水田耕作土・盛土)	オリーブ黒色泥土	+5.9～6.1	陶磁器	近世?～近代
第2層	オリーブ黒色シルト	+5.5～5.9	なし	不明
第3層	黒褐色シルト	～+5.9	なし	不明

・H26B区（寿昌寺西遺跡第1次発掘調査）

層位 遺構	層相	標高 (m)	遺物	堆積時期
第1層 (大学造成前水田耕作土・盛土)	オリーブ黒色泥土 灰オリーブ泥土	+5.8～6.3	陶磁器	近世?～近代
第2層	オリーブ黒色シルト・泥土 黒褐色泥土		須恵器	奈良?
第3層	黄褐色細砂 黒褐色細砂・シルト 暗灰黄色細砂		弥生土器 人頭大の礫	弥生中期後葉～後期後葉
第4層	オリーブ黒色シルト	～+5.2	なし	不明

特記事項

調査の結果、H26B区第3層中から二次的に堆積した弥生中期後葉～後期後葉の弥生土器が大量に出土した。破片は比較的大型であることから、付近に当該期の大規模集落が存在している可能性が高い。

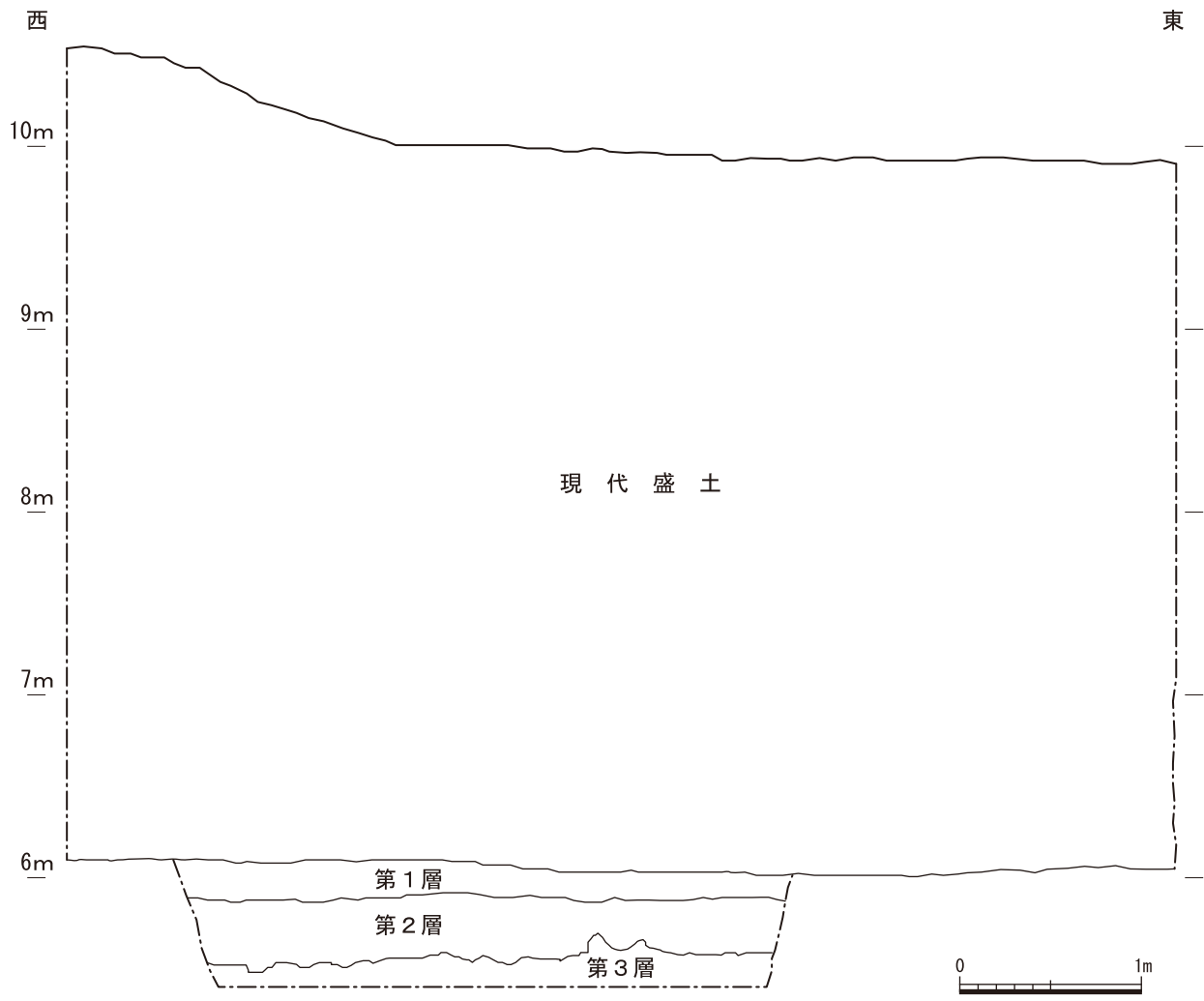


図4 島根大学出雲キャンパスH26A区北壁断面図 (1/40)

当調査によって出雲キャンパス東側部分（教育研究棟周辺・駐車場・野球場）は、近隣で知られていた寿昌寺西遺跡に含まれる可能性が高まった。そこで、H26B区調査を寿昌寺西遺跡第1次発掘調査と呼称することとした。出土した弥生土器の時期である弥生時代中期後葉～後期後葉は、荒神谷遺跡・西谷墳墓群をはじめとした重要な弥生遺跡の存続時期と併行する。今後の開発工事の際には、事前により慎重な調査を実施し、埋蔵文化財の保護や解明に努める必要がある。

（3）島根大学構内遺跡第20次発掘調査（竹崎地区3）

調査機関 島根大学ミュージアム

調査場所 島根県松江市西川津町1060（旧字名：竹崎） 松江キャンパス 本部棟（図6の20）

調査原因 本部棟改修工事（耐震補強用外壁敷設）

調査面積 北区：75㎡（30m×2.5m）、南区：47.5㎡（19m×2.5m）

調査期間 平成26年4月11日～22日

調査経過

（北区）

平成26年4月11～12日 近現代盛土重機掘削

4月14日 第1層掘り下げ（東半部）

4月15日 第2層掘り下げ（東半部）

4月16日 第3層掘り下げ（東半部）、北壁断面写真（東半部）

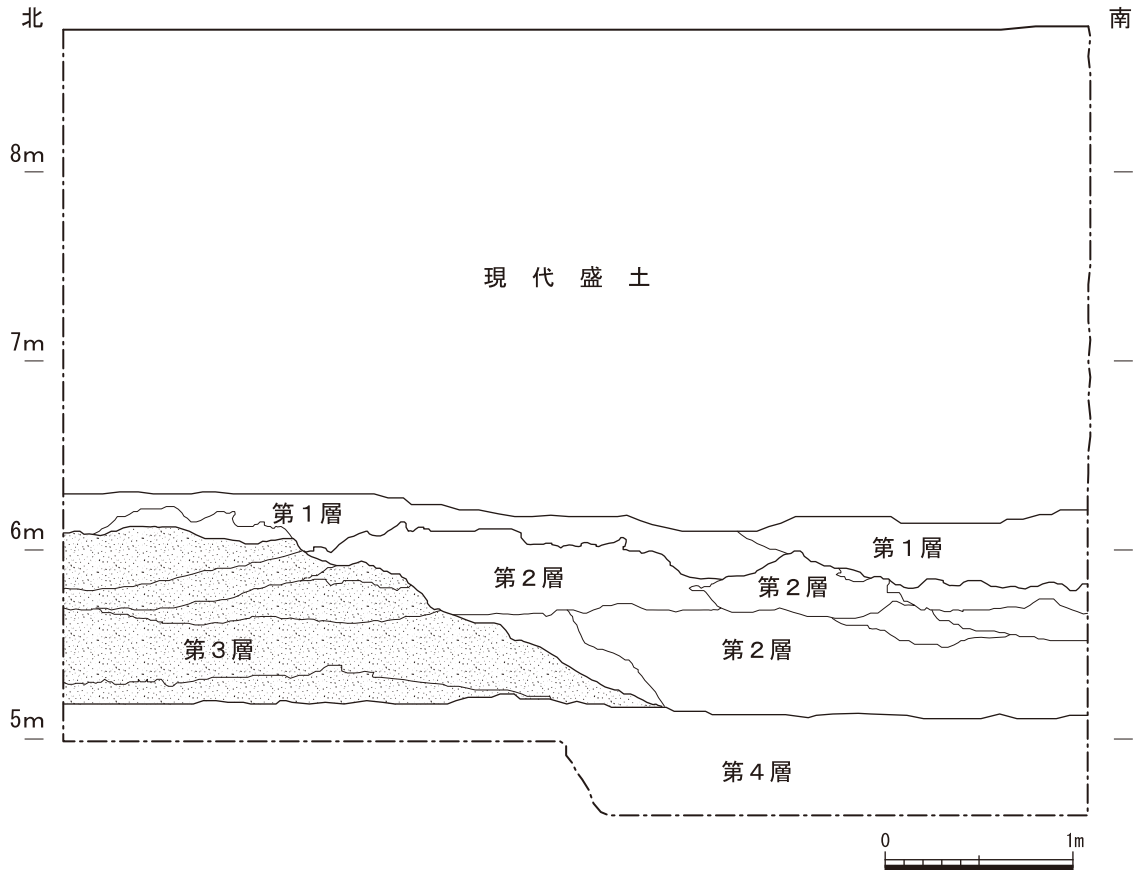


図5 島根大学出雲キャンパスH26B区東壁断面図 (1/40)

- 4月17日 第1層掘り下げ (西半部)
- 4月18日 北壁断面写真 (西半部)、全景写真
- 4月19～21日 北壁断面図面作成
- 4月21日 現地検討会 (ミュージアム埋蔵文化財専門委員会)

(南区)

- 平成26年4月14日 近現代盛土重機掘削
- 4月15日 第1層掘り下げ
- 4月16～17日 第2・3層掘り下げ
- 4月17日 全景写真、南壁断面写真
- 4月21日 現地検討会 (ミュージアム埋蔵文化財専門委員会)
- 4月21～22日 南壁断面図面作成

基本層位 (図7)

層名	層相	標高	遺物	時代
第1層 (近代水田耕作土)	オリーブ黒色粘土	+0.5～0.9m	陶磁器・須恵器・「寛永通宝」	近代
第3層	黄褐色細砂 (離水した砂州層)	+0.2～0.5m	なし	縄文中期以降
第4層	黒色細砂 (水成堆積物)	～+0.3m	なし	縄文中期以降

特記事項

基本層位は、近隣の既往調査 (南隣の第10次調査など) と同様である。縄文海進期の入江の

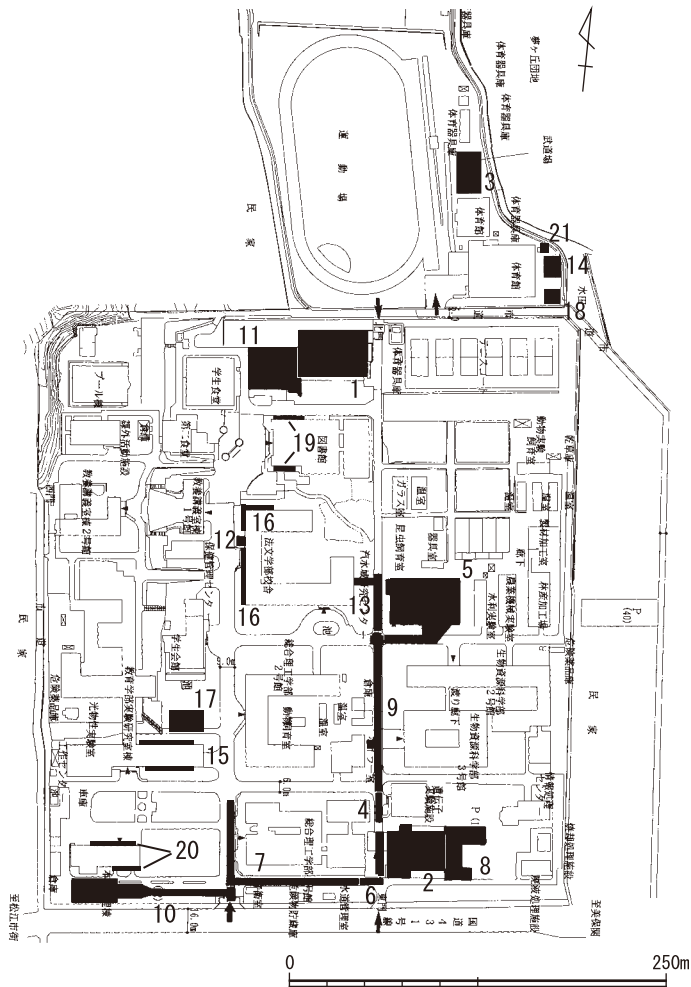


図6 島根大学構内遺跡第20・21次調査区一図 (1/5,000)

水底に堆積したシルト層と、縄文中期以降、その上位に形成された砂州層を検出した。また、近代盛土から旧制松江高校本館（大正9年5月～大正10年12月工事、大正10年12月20日竣工）の煉瓦造り基礎を検出した。基礎は、ミュージアム本館の敷地内に移築保存した。

(4) 島根大学構内遺跡第21次発掘調査（橋縄手地区6）

調査機関 島根大学ミュージアム

調査場所 島根県松江市西川津町1060（旧字名：橋縄手） 松江キャンパス 第1体育館東隣（図6の21）

調査原因 NTT ドコモ携帯電話アンテナ新営工事

調査面積 36 m²（6 m×6 m）

調査期間 平成26年11月7日～12月10日

調査経過 平成26年11月7日～12日 現代盛土重機掘削・矢板打ち

11月13日 第1層掘り下げ

11月14日 第2層掘り下げ

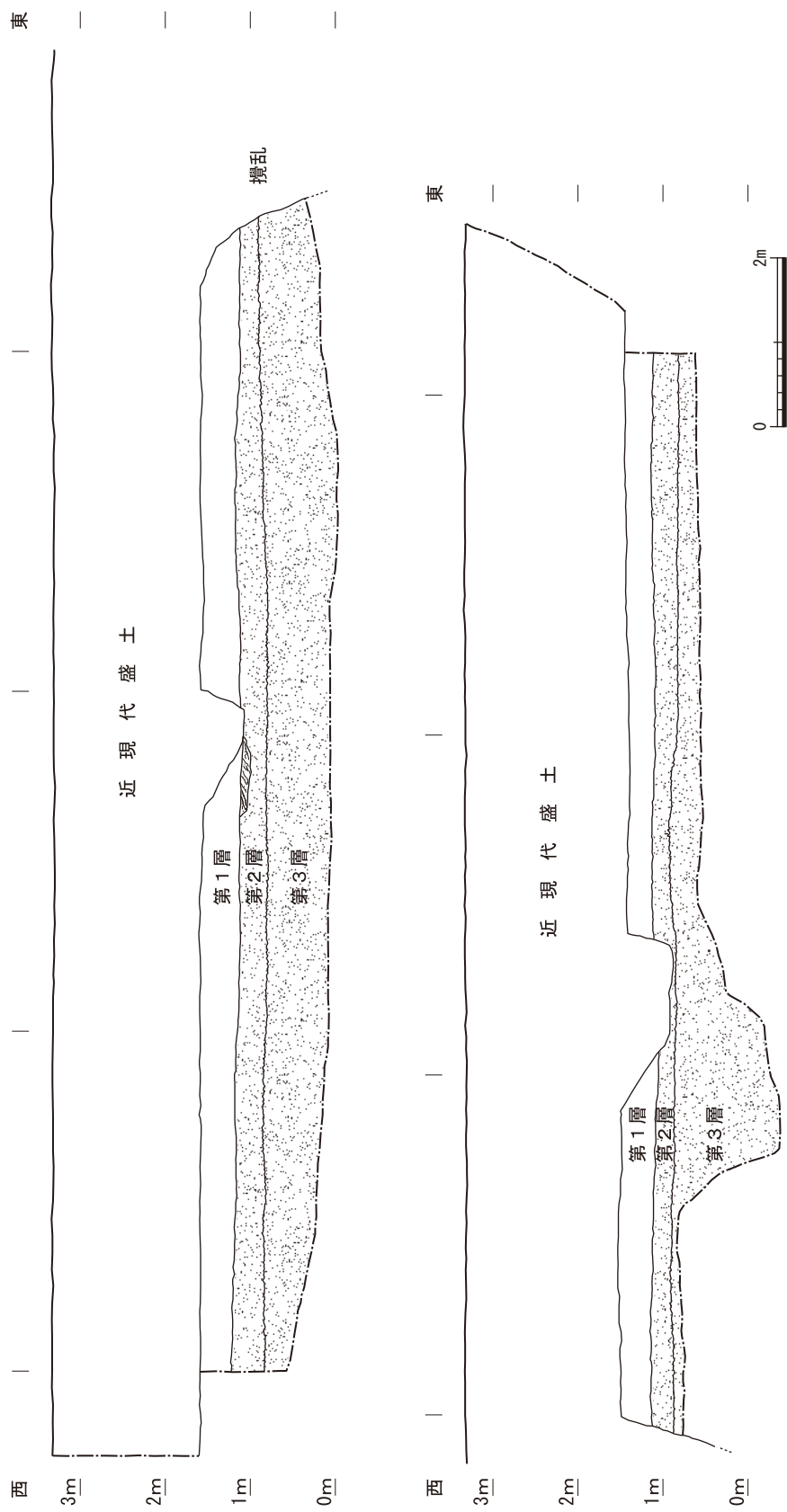


图7 島根大学構内遺跡第20次調査区北壁断面图 (1/80)

- 11月14～19日 第3・4層掘り下げ
- 11月20日～12月3日 第5・6層掘り下げ
- 11月27日 東壁断面図作成
- 12月4～5日 第7層掘り下げ
- 12月8日 完掘状況（基盤層上面）全景写真・東壁写真
- 12月8日 基盤層上面等高線図作成
- 12月9～10日 補足調査（土壌サンプル・C14年代測定用材採取など）

基本層位・遺物 (図8)

層名	層相	標高	遺物	時代
第1層 (近代水田耕作土)	オリーブ黒色粘土	+2.2～2.4m	陶磁器・瓦	近代
第2層	灰色粘土	+2.0～2.26m	円筒埴輪	古墳?
第3層	黄褐色粗砂	+1.9～2.2m	弥生土器	弥生中期頃
第4層	黒褐色粘土・暗灰黄色粘土	(+1.6～1.74m) ～ (+2.0～2.1m)		
第5層	暗褐色泥土	(+1.5～1.6m) ～ (+1.6～1.74m)		
第6層	黒褐色シルトと黒褐色細砂の互層 (水成堆積物)	(+1.0～1.3m) ～ (+1.5～1.6m)	縄文土器・石錘・焦痕のある材・自然木	縄文前期以降
第7層	オリーブ黒色粗砂 (河川性)	+0.9～1.2m	石錘・自然木	縄文前期以降
基盤層	松江層	+0.9～1.3m		約1000万年前

特記事項

調査区は、金崎丘陵と低湿地の変換部に位置し、縄文海進期に島根大学松江キャンパスに形成された入江の汀線付近に相当する。今次調査では、海蝕台状を呈した平坦地形の基盤層（松江層）上面や縄文海進期の海成層などを検出することができ、キャンパス北部の旧地形・古環境を復元する手がかりが得られた。今後、珪藻分析やC14年代測定なども実施し、海面変動の復元データを得たいと考える。

また、遺物としては、縄文土器・石錘、焦痕のある材などが出土し、当該期の水辺での活動を知る一資料となった。

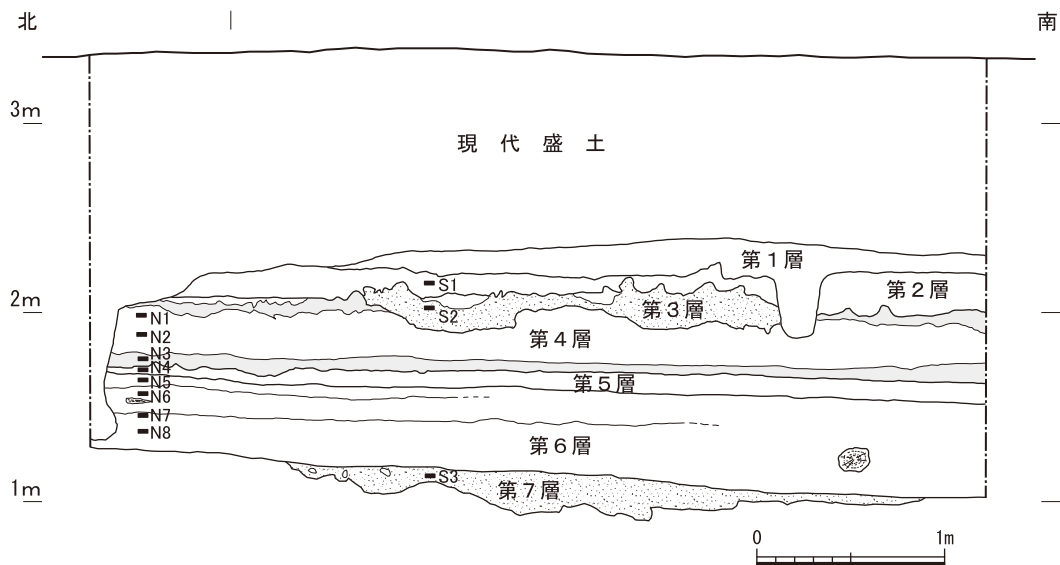


図8 島根大学構内遺跡第21次調査区東壁断面図 (1/40)

(5) 工事立会

松江・出雲キャンパス内の受水槽など設置工事に際し、工事範囲が狭小で、深度も近現代盛土の範囲内に留まることから、地下の埋蔵文化財に影響がないことを想定し、工事立会に対応した。立会の結果、いずれも近現代盛土の範囲内に留まる工事であったことから、埋蔵文化財への影響がないことを確認した。

(6) 島根大学構内遺跡第15・16・17・18・19・20・21次発掘調査、寿昌寺西遺跡

第1次発掘調査の整理・研究

上記調査のほか、平成18年度実施の島根大学構内遺跡第15次調査、平成19年度実施の同遺跡第16次調査、平成20年度実施の同遺跡第17次調査、平成21年度実施の同遺跡第18次調査、平成24年度実施の同遺跡第19次調査、寿昌寺西遺跡第1次調査などの出土遺物実測・トレース、遺構図面トレース、出土材化石のプレパラート標本化といった室内整理作業を進めた。

6 島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用

島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）は、1924（大正13）年11月竣工の旧制松江高等学校外国人教師（独語教師）宿舎で、国登録有形文化財にも登録されている。平成21年10月に修復工事を終え、サテライトミュージアムとしてオープン、平成26年10月で5周年を迎えた。

平成25・26年度も引き続き、1階常設展示室では、「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」を一部展示替えをしつつ開催したほか、1階多目的室を中心にミュージアムによる企画展示などを行った。このほか、大学メセナの一環として、学内外団体との共催による様々なイベント（作品展・ミニ教室など）を開催し、持続的に集客できる施設になるよう努めた。

活用状況は、下記の通り。島根大学ミュージアム主催催し物の詳細や入館者数は、「Ⅱ-4 標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献」を参照のこと。

① 展示活動

- ・平成25年9月29日（土）～12月1日（日）の土日祝日 浅井菜保子リトグラフ版画展「PLANT COLLECTION展」（個人主催）
- ・平成25年12月14日（土）～平成26年1月26日（日）の土日祝日 島根大学ミュージアム企画展「明治時代の植物標本～発見された旧制松江高等学校（島根大学前身校）の遺産～」(島根大学ミュージアム主催)
- ・平成26年2月7日（金）～2月12日（水） 企画展「平和学習を通して～学んだこと・伝えたいこと～」(城北公民館城北小6年部主催)
- ・平成26年3月15日（土）～6月8日（日）の土日祝日 附属図書館企画展示「堀尾・京極・松平ー松江城下・今昔ー」パネルのアンコール展示
- ・平成26年9月27日（土）～10月26日（日）の土日祝日 作品展「みなのことのはーきみのこころとことばー」（個人主催）
- ・平成27年2月28日（土）～3月1日（日） 絵画展「良子の世界～笑顔がいっぱい～Ⅱ」（個人主催）
- ・平成27年3月7日（土）～5月10日（日）の土日祝日 島根大学ミュージアム企画展「島根師範学校の遺産Ⅱ～島根大学教育学部附属幼稚園に伝え遺されてきた近代の教材～」(島根大学ミュージアム主催)



浅井菜保子リトグラフ版画展「PLANT COLLECTION展」
(25. 9. 29～12. 1)



城北公民館城北小6年部主催企画展「平和学習を通して～
学んだこと・伝えたいこと～」(26. 2. 7～12)

② イベント

- ・平成25年7月6日(日) 映画会(個人主催)
- ・平成26年11月1日(土)・3日(月祝) 一人舞台 井川いずみ presents 第5回公演『寝入りリスト』(個人主催)

③ 授業での活用

- ・平成25年11月1日(金) 島大ミュージアム学(総合科目)
- ・平成26年10月31日(金) 島大ミュージアム学(総合科目)

7 マスコミ報道状況

- ・平成25年5月1日 月刊誌『教育旅行』5月号「巻頭連載 日本の教育文化遺産を訪ねる[65]【登録有形文化財】島根大学旧奥谷宿舎」
- ・平成25年5月12日 読売新聞「太陽電池で無線車GO! 島根大 体験教室に児童ら50組」(子供ミュージアム体験教室「動かして学ぼう! 太陽電池の不思議 ～ラジコンカーを太陽電池で動かそう!～」紹介)
- ・平成25年5月12日 山陰中央新報「太陽光の働き学ぼう 児童ら”ソーラーカー”作り」(子供ミュージアム体験教室「動かして学ぼう! 太陽電池の不思議 ～ラジコンカーを太陽電池で動かそう!～」紹介)
- ・平成25年5月13日 山陰中央新報「島根ふるさと遺産100選『島根大学旧奥谷宿舎』」
- ・平成25年8月11日 新聞 読売新聞「過去の津波被害痕跡から学ぶ」(第59回ミュージアム講座「山陰の地で過去の津波の痕跡を探る」紹介)
- ・平成25年10月6日 中国新聞「出雲パワー・天風録」(第1回島根大学ミュージアム特別講座 in 広島「出雲神話のロマンとたたら」紹介)
- ・平成25年12月15日 山陰中央新報「島大所有の植物標本展示 学内で近年発見。アサガオなど20点」(島根大学ミュージアム企画展示「明治時代の植物標本～発見された旧制松江高等学校(島根大学前身校)の遺産～」紹介)
- ・平成26年8月4日 島根日日新聞「親子で化石を採取 小田海岸で子ども体験教室」(夏休み子どもミュージアム体験教室「大昔の島根を知ろう! ～1300-1400万年前の化石を調べよう!～」紹介)
- ・平成26年8月26日 山陰中央新報「増田渉の足跡 市民学ぶ」(第71回ミュージアム講座「上

海 - 松江 増田渉と魯迅」紹介)

- ・平成 26 年 11 月 16 日 山陰中央新報『庁舎は国の重文級』市民ら 初代松江署の価値学ぶ(第 73 回ミュージアム講座「初代松江警察署庁舎の建築復原について」紹介)
- ・平成 26 年 12 月 20 日 NHK松江放送局(冬休み子供ミュージアム体験教室「LEDを使ってクリスマス・イルミネーションを作ろう!」紹介)
- ・平成 26 年 12 月 21 日 山陰中央新報「将来は君もノーベル賞?! LED 電飾 児童が製作」(冬休み子供ミュージアム体験教室「LEDを使ってクリスマス・イルミネーションを作ろう!」紹介)

8 ミュージアム教員の活動記録

會下和宏 EGE Kazuhiro 准教授

著書・論文など

- ・會下和宏 2013「出雲の四隅突出型墳丘墓」『神話・青銅器・たたら 古代出雲文化フォーラム I』今井書店 pp. 63-91
- ・會下和宏 2014「弥生時代における墓制の展開とその社会」(広島大学大学院文学研究科学学位請求論文)
- ・會下和宏 2015「遺跡・史跡をめぐる」『フィールドで学ぶ斐伊川百科』今井書店 pp. 244-250

学会発表など

- ・會下和宏 2013「主旨説明」『2013 年度博古研究会・研究発表大会「弥生時代～古墳出現期における列島各地の墓制を考える」』(於・出雲弥生の森博物館)
- ・會下和宏 2014「キャンパス内に分散する施設を活用した大学ミュージアム活動の事例」『第 17 回大学博物館等協議会・第 9 回博物科学会』(於・愛媛大学)

社会的活動 (島根大学ミュージアム主催のものは省略)

- ・講師「弥生時代の埋葬」『平成 26 年度荒神谷博物館講演会 (第 112 回)』荒神谷博物館主催 (2014. 12. 13、於・荒神谷博物館)
- ・コーディネーター『古代出雲文化フォーラムⅢ 「くにびき神話」と古代出雲・伯耆の成り立ち』島根大学主催 (2015. 3. 8、於・大阪国際会議場)
- ・出雲弥生の森博物館運営協議会会長 2013・2014 年度

担当授業

【学芸員資格取得に関する科目 (ミュージアム開講)】

- ・「博物館概論」「博物館概論 A」
- ・「博物館資料論」
- ・「博物館資料保存論」(分担)
- ・「博物館展示論 A」
- ・「博物館教育論 A」
- ・「博物館教育論 B」
- ・「博物館情報・メディア論 A」
- ・「博物館情報・メディア論 B」
- ・「博物館情報論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館経営論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学各論 I」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け)
- ・「博物館学各論 II」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け)
- ・「博物館実習 I」「考古学実習 III」「博物館学実習」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習 II」(島根大学法文学部・総合理工学部学生向け、分担)

- ・「博物館実習Ⅲ」「博物館実習」（島根大学法文学部学生向け）
- ・「博物館実習Ⅲ」「博物館実習」（島根大学総合理工学部学生向け）
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」（島根大学法文学部学生向け）
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」（島根大学総合理工学部学生向け）

【島根大学共通教養科目ほか】

- ・「島大ミュージアム学」（ミュージアム開講、分担、公開授業）
- ・「フィールドで学ぶ『斐伊川百科』」（法文学部開講、分担）
- ・「出雲文化学」（教育開発センター開講、分担）
- ・「ジオパーク学入門」（くにびきジオパークプロジェクトセンター開講、分担）
- ・「ジオパーク学各論」（くにびきジオパークプロジェクトセンター開講、分担、平成 26 年度）

島根大学学術情報機構ミュージアム年報

平成 25・26 年度

発 行 2015年 5 月15日

発行者 島根大学 学術情報機構 ミュージアム

〒690-8504 松江市西川津町1060

電話 (0852) 32-6496

印 刷 株式会社谷口印刷
